User's
Manual

SMARTDAC+™

SMARTDAC+ スタンダード
ハードウェア設定
ユーザーズマニュアル

vigilantplant.®

YOKOGAWA
横河電機株式会社

IM 04L61B01-02JA
3 版

はじめに

このマニュアルは、SMARTDAC+ スタンダード　ハードウェア設定の使い方について説明したものです。ご使用前にこのマニュアルをよくお読みいただき、正しくお使いください。

ご注意

- 本書の内容は、性能・機能の向上などにより将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社・支店・営業所までご連絡ください。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 本製品の TCP/IP ソフトウェアおよび、TCP/IP ソフトウェアに関するドキュメントは、カリフォルニア大学からライセンスを受けた BSD Networking Software、Release 1 をもとに当社で開発 / 作成したものです。

商標

- vigilantplant、SMARTDAC+ は、当社の登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社) の登録商標または商標です。
- Pentium は、米国 Intel 社の登録商標です。
- 本書に記載している製品名および会社名は、各社の登録商標または商標です。
- 本書では各社の登録商標または商標に、® および ™ マークを表示していません。

履歴

2012 年 12 月 初版発行
2013 年　2 月 2 版発行
2013 年　5 月 3 版発行

3rd Edition: May 2013 (YK)
All Right Reserved, Copyright © 2012-2013, Yokogawa Electric Corporation

ソフトウェア使用許諾契約書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは横河電機株式会社（以下「横河」といいます。）のソフトウェア（以下、お客様が横河の Web からダウンロードされたソフトウェア、または、横河、横河の支店、営業所または代理店等から製品添付の記録媒体にて入手されたソフトウェアを併せて「本ソフトウェア」といいます。）をお求めいただきまして誠にありがとうございます。
本ソフトウェアをインストールまたは使用することにより、お客様は本使用許諾契約書に記載の各条項に同意したものとみなされます。もし、本書に同意いただけない場合は、本ソフトウェアのインストールおよび使用は行わないでください。

第 1 条 (適用範囲)
本契約は，本ソフトウェアおよびこれに付帯して提供される関連資料（以下併せて「横河ソフトウェア製品」といいます）に適用します。横河が別に定める場合を除き、横河が提供する横河ソフトウェア製品の改訂版および機能追加版についても本契約が適用されます。
対象製品：SMARTDAC+ STANDARD Hardware Configurator

第 2 条 (使用権の許諾)
1. 横河は、お客様に対し、横河ソフトウェア製品について、お客様の自己使用を目的とした、非独占的かつ譲渡不能の使用権を許諾します。
2. 横河が書面により別途合意または規定した場合を除き、次の行為は禁止されます。
   a. 横河ソフトウェア製品を複製すること（ただし、バックアップ用に 1 部複製することは可能としますが、この場合複製物の管理に厳重な注意を払うものとします。）
   b. 横河ソフトウェア製品またはそれらの使用権を第三者に販売、転貸、頒布、譲渡、質入もしくは再使用を許諾したり、公衆送信もしくは送信可能化すること
   c. ネットワークを介して指定コンピュータ以外のコンピュータ上で横河ソフトウェア製品を使用すること
   d. ダンプ、逆アッセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング等により横河ソフトウェア製品をソースプログラムその他人間が読み取り可能な形式へ変換もしくは複製すること、修正もしくは他の言語への翻訳等により横河ソフトウェア製品を提供された形式以外に改変すること、またはこれらを試みること
   e. 横河ソフトウェア製品に使用または付加された保護の機構（コピープロテクト）を除去したり、除去を試みること
   f. 横河ソフトウェア製品に表示されている著作権、商標、ロゴその他の表示を削除すること
3. 横河ソフトウェア製品およびそれらに含まれる一切の技術、アルゴリズム、ノウハウおよびプロセスは、横河または横河に対し再使用許諾権または譲渡権を付与している第三者の固有財産および営業秘密であり、横河ソフトウェア製品の権利は横河または当該第三者に帰属し、お客様に権利の移転や譲渡を行うものではありません。
4. 前項記載の固有財産および営業秘密ならびにキーコードは、横河ソフトウェア製品を使用するために必要とされるお客様の役員、従業員またはそれに準じる者以外の第三者に開示、漏洩しないものとし、お客様は当該従業員等に対しては秘密保持の義務を負わせるものとします。
5. 本契約終了または解除時は、横河ソフトウェア製品およびその複製物を横河に返却するとともに、コンピュータまたは記憶媒体に記録されている複製物を完全に消去するものとします。横河ソフトウェア製品およびその複製物が記録されている記憶媒体を廃棄する場合は、必ずこれに記憶されている内容を完全に消去するものとします。
6. 横河ソフトウェア製品には、横河が第三者（横河の関係会社を含みます）から再使用許諾権または譲渡権を付与されているソフトウェアプログラム（以下「第三者プログラム」という）を含む場合があります。かかる第三者プログラムの供給者（以下「供給者」といいます）が本契約と異なる使用許諾条件を定めている場合には、別途提示される当該条件が本契約に優先して適用されます。第三者プログラムによっては、お客様が供給者から直接使用許諾を受ける形態のものもあります。
7. 横河ソフトウェア製品には、オープンソースソフトウェア（以下「OSS」といいます）が含まれる場合があります。OSS については、別途提示される条件が本契約に優先して適用されます。

第 3 条 (特定用途に関する制限)
1. 横河ソフトウェア製品は、横河、お客様間にて別途書面で合意した場合を除き、航空機の運行、船舶の航行もしくはこれらを地上でサポートする機器、鉄道施設、原子力施設もしくは放射線関連機器、または医療機器もしくは医療施設に関連した使用、その他高度な安全基準が求められる状況下での使用を目的として設計、製造または使用許諾されたものではありません。

2. お客様が前項の目的で横河ソフトウェア製品を使用する場合には、横河は当該使用により発生するいかなるクレームおよび損害に対しても責任を負わないものとし、お客様は、お客様の責任においてこれを解決するものとします。

第 4 条 (保証)
1. 横河ソフトウェア製品は、当該製品完成時または出荷時の現状のままでお客様に提供されるものとし、横河は瑕疵担保責任その他の保証責任を一切負わないものとします。提供形態が記録媒体の場合、それに破損、損傷などの瑕疵が発見された場合は出荷後 12 ヶ月に限り、横河はこれを無償で交換します。ただし、お客様の費用で横河の指定するサービス拠点に当該ソフトウェア製品の記憶媒体を送付していただく場合に限ります。横河はいかなる場合であっても、横河ソフトウェア製品に瑕疵および不具合のないこと、的確性、正確性、信頼性もしくは最新性などの品質上または性能上の明示もしくは黙示の保証をするものではありません。また、横河ソフトウェア製品が他のソフトウェアとの間で不整合、相互干渉などの影響のないことを保証するものでもありません。
2. 横河は、自己の判断により必要と認めた場合、横河ソフトウェア製品に関するバージョンアップ（以下、「バージョンアップ」といいます）を実施し、これを有償または無償にて提供することがあります。ただし、横河は、バージョンアップまたはバージョンアップ後の製品をお客様に提供する義務を負うものではありません。
3. 製品によっては、有償保守サービスが提供される場合があります。保守サービスの範囲および条件は、横河が別途定めるところによります。ただし、横河が保守対応をするのは、カタログまたは一般仕様書に別に記載のない限り、最新のバージョンおよびその直前のバージョンまでとし、直前のバージョンについてはバージョンアップ後 5 年間に限るものとします。また、受注停止のものについては、受注停止後 5 年内に限り対応します。標準品以外の製品については、保守対応できない場合があります。なお、横河以外により改変または修正された横河ソフトウェア製品については、横河は一切対応しないものとします。

第 5 条 (特許権、著作権の侵害に関する損害賠償責任)
1. お客様は、横河ソフトウェア製品につき、第三者から特許権、商標権、著作権その他の知的財産権の侵害に基づき使用の差止め、損害賠償請求等が行われた場合は、書面にて直ちに請求の内容を横河に通知するものとします。
2. 前項の通知がなされ、当該請求等が横河の責に帰すべき事由による場合は、その防御および和解交渉について、お客様から横河に防御、交渉に必要なすべての権限を与えていただき、かつ必要な情報および援助をいただくことを条件に、横河は自己の費用負担で当該請求等の防御および交渉を行い、前項記載の第三者に対して最終的に認められた責任を負うものとします。
3. 横河は第 1 項における請求またはその恐れがあると判断した場合は、横河の選択により、横河の費用で下記のいずれかの処置をとることができるものとします。
   a. 正当な権利を有する者からかかる横河ソフトウェア製品の使用を継続する権利を取得する。
   b. 第三者の権利の侵害を回避できるようなソフトウェア製品と交換する。
   c. 第三者の権利を侵害しないようにかかる横河ソフトウェア製品を改造する。
   d. 前各号の処置がとれない場合、本契約を解除し、かかる製品の簿価のうち既に横河が受領した金額を限度として損害を賠償する。
4. 前各項にかかわらず、第 1 項の請求にかかる侵害が、横河以外の者による横河ソフトウェア製品の改変に起因する場合、横河以外の第三者が納入した製品と横河ソフトウェア製品との組み合わせによる場合、お客様または発注者の指示に起因する場合、横河の助言に従わない場合その他横河の責に帰すべき事由によらない場合は、横河は前各項の責任を負わないものとします。
5. 本条の定めが知的財産権侵害に関する横河および供給者の責任のすべてとします。本条にかかわらず、第三者プログラムまたは OSS に起因する請求等については別途提示される条件が優先します。

第 6 条 (責任の制限)
1. 本契約に従いお客様が使用される横河ソフトウェア製品によって、横河の責に帰すべき事由によりお客様が損害を被った場合は、横河は、本契約の規定に従って対応するものとしますが、横河は、いかなる場合においても、派生損害、結果損害、その他の間接損害（営業上の利益の喪失、業務の中断、営業情報の喪失等による損害その他）については一切責任を負わないものとする。なお、横河が納入した製品につきお客様が横河の書面による事前の承諾なく改造、改変、他のソフトウェアとの結合を行い、またはその他、カタログ、一般仕様書、基本仕様書、機能仕様書もしくはマニュアルとの相違を生ぜしめた場合は、横河は一部またはすべての責任を免れることができるものとします。
2. 本契約の遂行または違反その他本契約に関してお客様が横河に対して有するすべての請求権は、請求の原因となる事由の発生から 3 ヶ月以内に横河に対して書面で通知しない限り、当該 3 ヶ月の経過をもって消滅するものとします。

第 7 条 (輸出規制)
お客様は、事前に横河の同意を得た場合を除き、横河ソフトウェア製品の全部または一部を、直接、間接を問わず輸出または他国に提供しないものとします。横河が同意した場合、お客様は、日本国、アメリカ合衆国その他関連国の輸出関連法規を遵守し、自らの責任と費用において輸出入許可の取得その他必要な手続きを行うものとします。

第 8 条 (監査、使用の差止め)
1. 横河は、お客様による本契約の履行を確認するため、合理的な範囲で、お客様の関連施設に立ち入り監査することができるものとします。
2. 横河ソフトウェア製品の使用許諾後といえども、使用環境の変化または許諾時には見出せなかった不適切な環境条件が見られる場合、その他横河ソフトウェア製品を使用するに著しく不適切であると横河が判断した場合には、横河はお客様に対して当該使用を差止めることができるものとします。

第 9 条 (譲渡)
お客様は、横河ソフトウェア製品の譲渡を行う場合には、事前に横河の書面による承諾を得たうえで譲渡とすることができます。また、お客様は譲渡前に譲受人に本契約が適用されることを明示しこれを遵守させるとともに、横河ソフトウェア製品をすべて譲受人に譲渡し、お客様自身が保有する複製物を完全に消去しなければなりません。

第 10 条 (解除)
横河は、お客様が本契約に違反した場合には、何ら催告を要することなく通知をもって本契約を解除できるものとします。この場合お客様は直ちに横河ソフトウェア製品の使用を中止し、第 2 条第 5 項に従い横河ソフトウェア製品およびその複製物を返却または消去するものとします。本契約終了後といえども第 2 条第 4 項および第 5 項、第 3 条、第 5 条、第 6 条および第 11 条は効力を有するものとします。

第 11 条 (管轄裁判所)
横河ソフトウェア製品の使用または本契約に関して生じた紛争については、両者誠意をもって協議解決するものとします。ただし，一方当事者が他方当事者に協議解決をしたい旨の通知後 90 日以内に両当事者間で協議が整わない場合は東京地方裁判所 (本庁) を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

このマニュアルの利用方法

利用方法

本マニュアルは、以下に示す第 1 章～第 3 章で構成されています。

章	タイトルと内容
1	**ご使用になる前に** ハードウェア設定の概要と、ハードウェア設定を使用するときに必要な PC 環境、起動方法、画面構成とメニューについて説明しています。
2	**設定データを作成する** 設定データの表示、作成、編集、保存、印刷などの方法、および、本ソフトウェアからの本体操作方法について説明しています。
3	**トラブルシューティング** エラーとメッセージの一覧を載せています。

このマニュアルにおける説明の範囲

本マニュアルでは、オペレーティングシステムの基本的な操作については説明していません。オペレーティングシステムの基本的な操作は、Windows のユーザーズガイドなどをお読みください。

このマニュアルで使用している記号

単位

K	「1024」の意味です。使用例：768K バイト (ファイル容量)
k	「1000」の意味です。

注記

	本機器で使用しているシンボルマークで、人体および本機器に危険があることを示すとともに、その内容についてユーザーズマニュアルを参照する必要があることを示します。ユーザーズマニュアルでは、その参照ページに目印として、「警告」「注意」の用語といっしょに使用しています。
警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険があるときに、その危険を避けるための注意事項が記載されています。
注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険があるときに、それを避けるための注意事項が記載されています。
Note	本機器を取り扱ううえで重要な情報が記載されています。

参照項目の表記

▶	関連する操作や説明の参照先をこのマークのあとに記述しています。 使用例：▶ 4.1 節

操作説明ページで使用しているシンボル

[ ]	画面に表示される文字列を表します。 使用例：[電圧]
操作	数字で示す順序で各操作をしてください。ここでは、初めて操作をすることを前提に、手順を説明しています。操作内容によっては、すべての操作を必要としない場合があります。
解説	解説では操作に関する限定事項などを説明しています。

画像について

本書に掲載されている画像が、操作説明に影響のない範囲で実際のソフトウェアの画像と異なる場合があります。

このマニュアルが対象としている製品

製品	バージョン
GX10/GX20/GP10/GP20	ファームウェアバージョン R1.03.xx まで 本書の説明では、「GX/GP」と記載しています。
SMARTDAC+ スタンダード　ハードウェア設定	R1.03.xx まで

改版の履歴

版数	説明
1	新規発行
2	バージョン R1.02.xx 対応 GX10/GP20/GP10 に対応。動作環境変更（IE9 対応）、多言語表示機能追加。記述改善。
3	バージョン R1.03.xx 対応、記述改善

Blank

目次

はじめに i
ソフトウェア使用許諾契約書 ii
このマニュアルの利用方法 iv

第 1 章　ご使用になる前に

1.1　ハードウェア設定の概要 1-1
1.1.1　ハードウェア設定の特徴 1-1
1.1.2　インストールとバージョンの更新について 1-1
1.2　必要な PC システム環境 1-2
1.2.1　ハードウェア 1-2
1.2.2　オペレーティングシステム 1-2
1.2.3　Web ブラウザ 1-2
1.2.4　その他の動作条件 1-2
1.3　画面とメニュー 1-3
1.3.1　画面とメニューの構成 1-3
1.3.2　メニュー操作の基本と流れ 1-4
1.3.3　操作の流れ 1-5
1.4　起動方法と終了方法 1-6
1.4.1　起動方法 1-6
1.4.2　表示言語と HTTP ポート番号の指定 1-7
1.4.3　終了方法 1-8

第 2 章　設定データを作成する

2.1　設定データを新規作成する 2-1
2.1.1　ファイルを新規作成する 2-1
2.2　設定データを表示する 2-4
2.2.1　ファイルを開く 2-4
2.3　設定データを編集する 2-6
2.3.1　設定を編集する 2-6
2.3.2　設定値の編集と操作 2-7
2.3.3　範囲選択とコピー＆ペースト操作 2-11
2.4　設定データを保存する 2-19
2.4.1　設定データファイルを保存する 2-19
2.5　設定データを受信する、送信する 2-21
2.5.1　設定データを受信する 2-21
2.5.2　設定データを送信する 2-23
2.5.3　ユーザ設定を送信する 2-24
2.5.4　本体のセキュリティ設定を変更する 2-25
2.6　本体を操作する 2-28
2.6.1　記録、演算を開始する／停止する 2-28
2.6.2　本体のハードウェア情報を確認する 2-29
2.7　設定データを初期化する 2-31
2.7.1　システム構成を表示する、変更する 2-31
2.7.2　設定データを初期化する 2-31
2.8　設定データを印刷する 2-32
2.8.1　印刷の設定 2-32

第 3 章　トラブルシューティング

3.1　エラーとメッセージ一覧 3-1

Blank

1.1　ハードウェア設定の概要

1.1.1　ハードウェア設定の特徴

SMARTDAC+ スタンダード　ハードウェア設定は、GX/GP 記録計の各機能の設定データを作成するための PC ソフトウェアです。
作成した設定データを、編集、保存、印刷することができます。
また、通信経由で GX/GP 本体にデータを送受信したり、操作を行ったりすることができます。

Web ベースのオフラインアプリケーション
Web ブラウザ（Internet Explorer）を使用して、PC 上で設定データを作成できます。
設定データの編集に通信設定は不要なため、本ソフトウェアとブラウザだけで設定データの作成ができます。

設定データの作成・編集
機種や付加仕様を指定して新規で設定データを作成することができます。
また、既存の設定データを編集することもできます。

設定データのセーブ・ロード
作成したデータを PC に保存したり、PC に保存された設定ファイルを読み込むことができます。

設定データの送信・受信
設定データを通信経由で GX/GP へ送信、また、受信することができます。

設定データの印刷
設定データを印刷できます。

GX/GP 本体の操作
通信経由で本体の記録、または演算の開始／終了の操作ができます。

GX/GP の情報取得
通信経由で GX/GP の機器情報を取得できます。

1.1.2　インストールとバージョンの更新について

本ソフトウェアのインストール、および、バージョンの更新は、当社ウェブサイトよりインストーラをダウンロードして行ってください。
お使いのソフトウェアの「バージョン情報」、および「更新ウェブサイトへ」のリンク情報は［ヘルプ］メニューより取得できます。

Note

- インストールする前に、他のソフトウェアを終了してください。
- 再インストールする場合は、本ソフトウェアをアンインストールしてから再インストールしてください。
- インストール時に、「日本／日本以外の国地域」の選択画面が表示されます。ご使用になる国を選択してください。
- 「ハードウェア設定」ソフトウェアは Web ブラウザを使用するため、HTTP ポート番号があらかじめ「34443」に設定されています。「34443」のポート番号が、既に他のアプリケーションで使用されている場合、インストールしても、起動することができません。
  対処方法：▶「1.4 起動方法と終了方法」

1.2 必要な PC システム環境

1.2.1 ハードウェア

パーソナルコンピュータ本体

Windows XP、Windows Vista、または Windows 7 が動作する機種

CPU と主記憶容量

PC 構成	OS	動作環境
CPU	XP/Vista/7（32bit）	Pentium4　3GHz 以上の Intel 社製 x64 または x86 プロセッサ
	Windows7（64bit）	Pentium 4　3GHz 相当以上の Intel 社製 x64 プロセッサ
内部メモリ	共通	2GB 以上
ハードディスク	共通	空き容量が 100 ＭＢ以上（データ量により、これ以上必要な場合があります。）NTFS 推奨
マウス	共通	OS に対応したマウス
ディスプレイ	共通	OS に対応した 1024 x 768 ドット以上、65,536 色（16 ビット、High Color）以上のディスプレイ
通信ポート	共通	OS に対応した Ethernet ポートおよび TCP/IP プロトコル
プリンタ	共通	使用する Windows システムで使用可能なプリンタ（OS に対応したプリンタドライバが必要です。）

1.2.2 オペレーティングシステム

OS	エディション
Windows XP	Home Edition SP3（64 ビット版を除く）
	Professional SP3（64 ビット版を除く）
Windows Vista	Home Premium SP2（64 ビット版を除く）
	Business SP2（64 ビット版を除く）
Windows 7	Home Premium SP1（32 ビット版・64 ビット版）
	Professional SP1（32 ビット版・64 ビット版）

1.2.3 Web ブラウザ

対応ブラウザ	バージョン
Windows Internet Explorer Java Runtime Environment 1.6（Version 6）	IE6、IE8、および IE9 （HTTP1.1 および JavaScript を有効にしてください。）

Note

- ハードウェア設定で表示に使用される Web ブラウザは、Internet Explorer（以下、IE といいます）に限定されています。ご使用の PC にインストールされていない場合は、起動時にエラーが表示されますのでご注意ください。
- 指定バージョン以外の IE、あるいは他の Web ブラウザでのご使用は、サポート対象外となります。

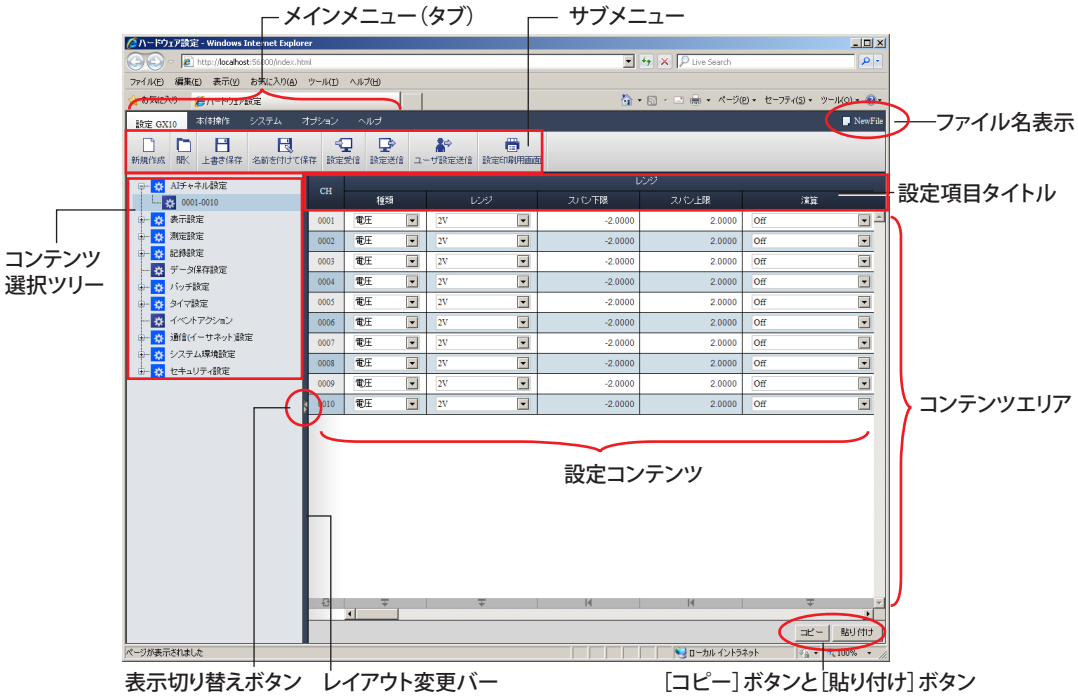
1.2.4 その他の動作条件

本ソフトウェアの取扱説明書をご覧になるには、アドビシステムズ社の Adobe Reader 7 以上（最新を推奨）が必要です。

1.3 画面とメニュー

1.3.1 画面とメニューの構成

ハードウェア設定のメニューは、下図のように、メインメニュー、サブメニュー、ファイル名表示エリアから構成されています。



メインメニューとサブメニュー

メインメニューはタブ形式になっています。各メインメニューをクリックすると、アクティブなタブが切り替わり、表示されるサブメニューも変わります。
メニュー項目と、その内容の一覧を下表に示します。

メインメニュー	サブメニュー	目的
設定 GX10 GX20 GP10 GP20	新規作成	設定データファイルの新規作成
	開く	PC に保存されている設定ファイルを読み込む
	上書き保存	ファイルの上書き保存
	名前を付けて保存	PC にファイルを新規で保存する
	設定受信	本体設定データを受信する
	設定送信	現在の設定データを本体に送信する
	ユーザ設定送信	ユーザ設定のみを本体に通信経由で送信する
	設定印刷画面	設定データを印刷するウィンドウを表示する
本体操作	記録開始	本体の記録を開始する
	記録停止	本体の記録を停止する
	演算開始	本体の演算を開始する
	演算停止	本体の演算を停止する
	ハードウェア情報	本体のステータス、オプション情報を受信して表示する
システム	システム構成	システム構成を表示・変更する
	設定値の初期化	現在の設定データの初期化を行う
オプション	表示オプション	設定ソフトウェアの表示オプション（表示言語）を指定する
	ポート番号	本設定ソフトのポート番号を指定する
ヘルプ	取扱説明書	取扱説明書を表示する*
	バージョン情報	設定ソフトウェアのバージョンを表示する
	更新ウェブサイトへ	設定ソフトウェアの最新版へ更新するためのウェブサイトへ移動する

* ブラウザで表示させている言語が日本語、英語、中国語の場合、それぞれ言語の取扱説明書を表示します。その他の言語で表示している場合は、英語の取扱説明書が表示されます。

ファイル名表示
設定ファイルの名称が表示されるエリアです。
「指定ファイル名」または「New File」のいずれかの文字列が表示されます。

「指定ファイル名」は、次の場合に表示されます。
- ファイルを指定して読み込み、表示されたとき
- ファイルに［名前を付けて保存］したとき

また、「New File」は次の条件で表示されます。
- 設定ソフトを起動したとき
- ［新規作成］メニューをクリックしたとき
- 通信で GX/GP 本体に接続し、設定を受信したとき

コンテンツ選択ツリー
GX/GP に設定したい項目（編集項目）を選択するツリーです。
［コンテンツ選択ツリー］の項目をクリックすると、右側の［コンテンツエリア］の表示が変わります。ツリーの各設定に応じた設定項目に切り替わります。

コンテンツエリア
設定項目の詳細が表示されるエリアです。
［コンテンツ選択ツリー］で選択された設定コンテンツが表示されます。
設定ソフト起動直後は、チャネル設定のコンテンツを表示します。チャネル設定がない場合、表示設定のコンテンツを表示します。

レイアウト変更バー
画面のレイアウトを変更できます。
レイアウト変更バーを左右にドラッグし、ドロップすると、コンテンツ選択ツリーとコンテンツエリアの表示幅を変更できます。また、中央の表示切り替えボタンをクリックすると、コンテンツ選択ツリーの表示、非表示を切り替えることができます。

［コピー］ボタンと［貼り付け］ボタン
設定項目の編集時に、設定内容をコピーしたり、貼り付けたりするためのボタンです。

1.3.2 メニュー操作の基本と流れ

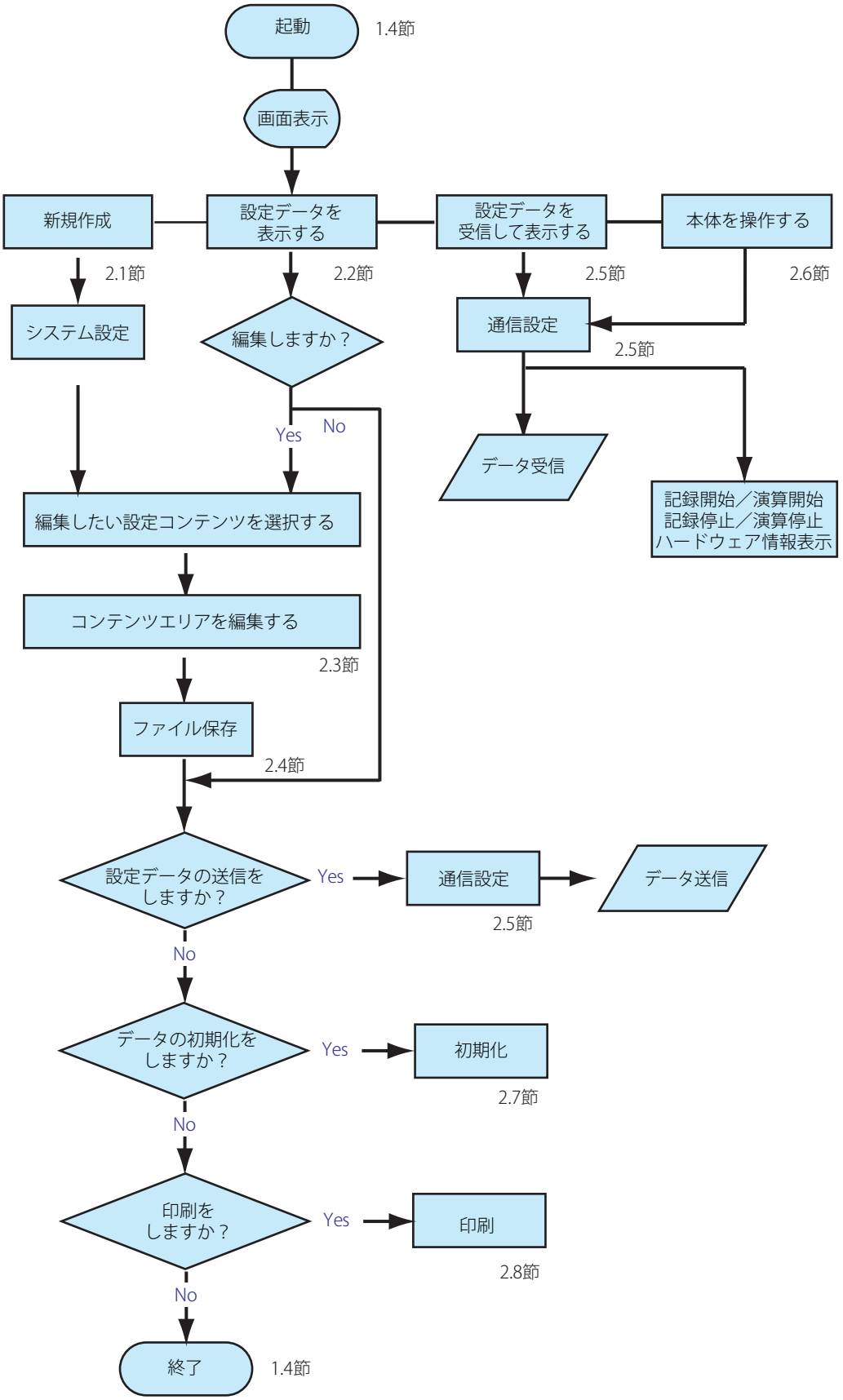
ハードウェア設定の基本的な操作手順は次のとおりです。
操作の詳細については 2 章「設定データを作成する」をご覧ください。

操　作

1. 起動する。
2. ［メインメニュー］タブを選択する。（[設定]、[本体操作]、[システム］[オプション]）
3. 手順 2 で選択したタブから、［サブメニュー］を選択する。（[新規作成]、[開く]、[記録開始]、[記録停止］など）
4. 表示されるダイアログボックスに応じて操作する。
5. 設定内容を編集する場合は、［コンテンツ選択ツリー］から編集したいタイトルを選択する。表示される設定項目を入力、または選択で編集する。
6. 作成、または変更した設定データファイルの処理を、［メインメニュー］、［サブメニュー］からを選択し、実行する。（[保存］または、［送信］など）
7. 終了する。

1.3.3 操作の流れ

本ソフトウェアの機能と操作の流れを示します。



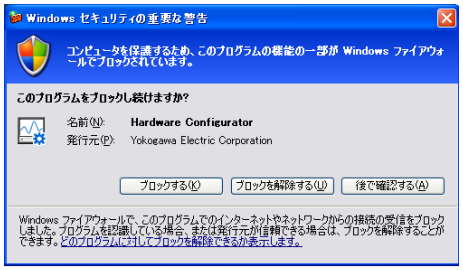
1.4 起動方法と終了方法

1.4.1 起動方法

操　作

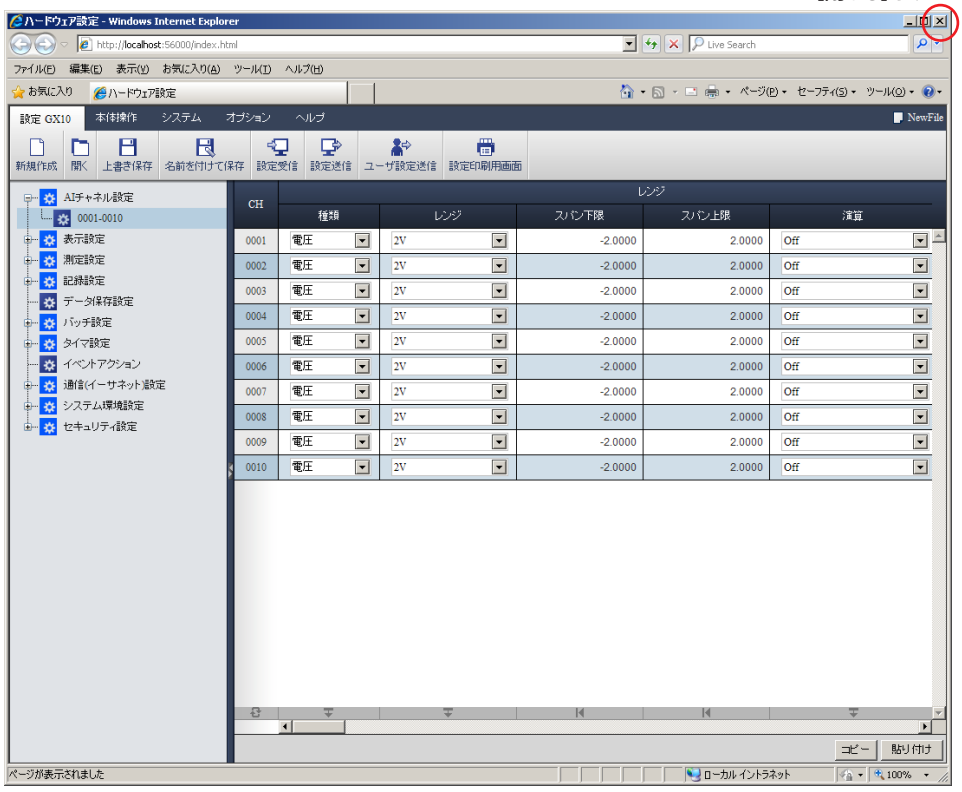
1 スタートメニューの、［すべてのプログラム］－［SMARTDAC+ STANDARD］－［ハードウェア設定］を選択します。

インストール直後の初回起動時は「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログ（下図：Window XP の画面イメージ）が表示されます。「ブロックを解除する」を選択してください。



ハードウェア設定が起動し、次のような画面が表示されます。

［閉じる］ボタン



Note

- Internet Explorer がインストールされていないと起動できません。
- 初期設定は GX10 のシステム構成になっています。

初回起動時のシステム構成

システム構成の初期設定は下表のとおりです。

システム構成について：▶「2.1 設定データを新規作成する」

項目	値
機器タイプ	GX10
バージョン	(最新のバージョンが表示されます)
モジュール	AI モジュール
オプション	全オプションなし

HTTP ポート番号の初期値が既に使用されている場合（ポート番号の衝突時）

初回起動時に、ポート番号の初期値（34443）が既に他の通信に予約されていると、ソフトウェアを起動させることができません。その場合は、次の手順に従ってポート番号を変更してください。

1. Windows タスクマネージャを起動します。（Ctrl + Alt + Del キーを押し、[タスク マネージャ] をクリックするか、または Ctrl + Shift + Esc キーを押します。）
2. 「ハードウェア設定」のプロセス「ndxserver.exe」を強制終了させます。
3. システム管理者権限でコマンドプロンプトを起動させます。
4. 本ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動し、下記のコマンドラインでポート番号を変更します。
   C:\ インストールディレクトリ >ndxserver /portno=xxxxx
   「xxxxx」は使用していないポート番号です。
   ポート番号の設定範囲内（34443 ～ 65535）で、他のアプリケーションに使用していない番号を「xxxxx」に入力してください。

Note

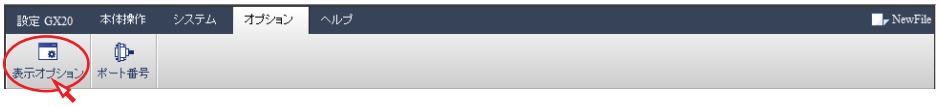
起動後に他のポート番号に変更する場合は、次項（1.4.2）の手順で変更することができます。

1.4.2　表示言語と HTTP ポート番号の指定

表示言語を日本語、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から選択することができます。

操　作

1. メインメニュー［オプション］タブを選択する。
2. サブメニュー［表示オプション］を選択する。



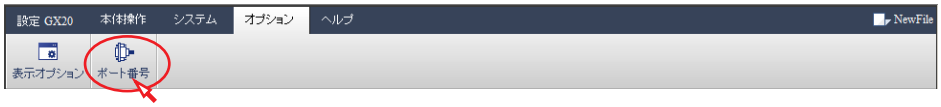
［表示オプション］ダイアログボックスが表示されます。

3. ▼をクリックして、言語を選択します。
4. OK をクリックします。
   表示言語が選択した言語に変更されます。

本ソフトウェアで Web ブラウザを使用するための、HTTP ポート番号を指定できます。

操 作

1. メインメニュー［オプション］タブを選択する。
2. サブメニュー［ポート番号］を選択する。



［ポート番号］ダイアログボックスが表示されます。

3. 指定するポート番号（入力範囲：34443~65535）を入力します。

Note

変更後のポート番号を有効にするためには、本ソフトウェアを再起動してください。
再起動するまでは、古いポート番号で動作します。

1.4.3 終了方法

操 作

1. Internet Explorer の終了操作を行ってください。ウィンドウの［閉じる］ボタンをクリック、または、［ファイル］メニュー［終了］を選択します。

Note

設定データを変更すると、変更は内部に保存され、次回起動時にはそのまま表示されます。

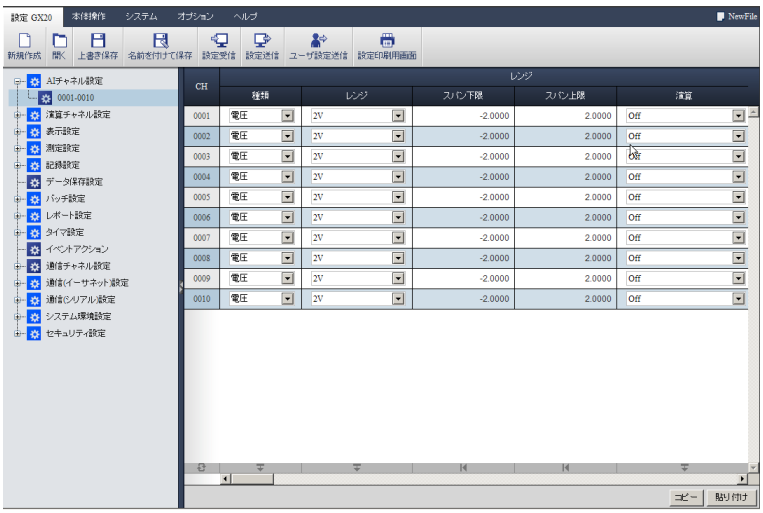
2.1　設定データを新規作成する

2.1.1　ファイルを新規作成する

SMARTDAC+ スタンダード　ハードウェア設定で、GX/GP の各機能を設定するためのデータファイルを新規作成します。

操　作

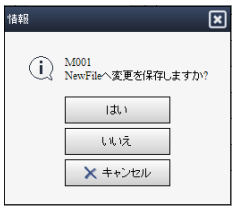
1 ハードウェア設定を起動します。
設定画面が表示されます。



2 メインメニュー［設定］タブー［新規作成］をクリックします。

［設定］タブー［新規作成］をクリック

表示中の設定ファイルを保存するかどうかの確認メッセージが表示される場合があります。

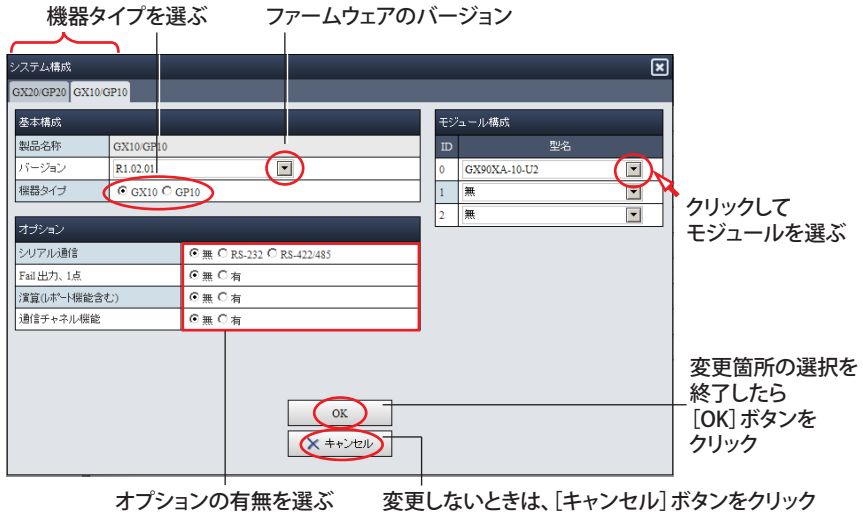


3 ファイルを保存したいときは［はい］ボタンを、保存しなくてよいときは［いいえ］ボタンをクリックします。

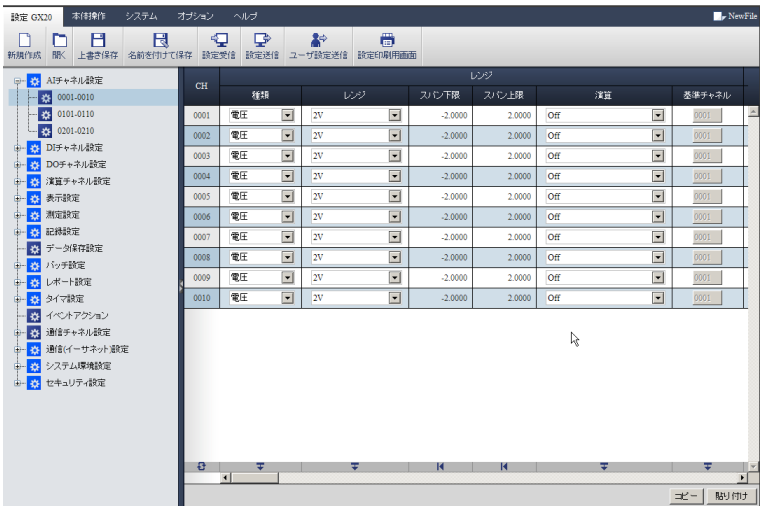
［はい］を選択すると、ファイルを保存するためのダイアログボックス（下図）が表示されます。
ファイルの保存方法：▶ 2.4 設定データを保存する

「いいえ」を選択した場合は、手順 4 の［システム構成］ダイアログボックスが表示されます。

4 システム構成を設定します。お使いの GX/GP のオプションとモジュール構成を選択してください。



5 各項目を設定したあと、［OK］ボタンをクリックします。
システム構成を読み込んで、それに基づく設定項目が作成されます。



6 新規画面の設定項目を編集し、設定データを作成します。
設定項目を編集するには：▶ 2.3 設定データを編集する

Note

システム構成を再構築すると、それまで編集していた設定項目の内容は初期化されます。画面に表示中の設定を保存したいときは、手順２で「はい」をクリックしてください。

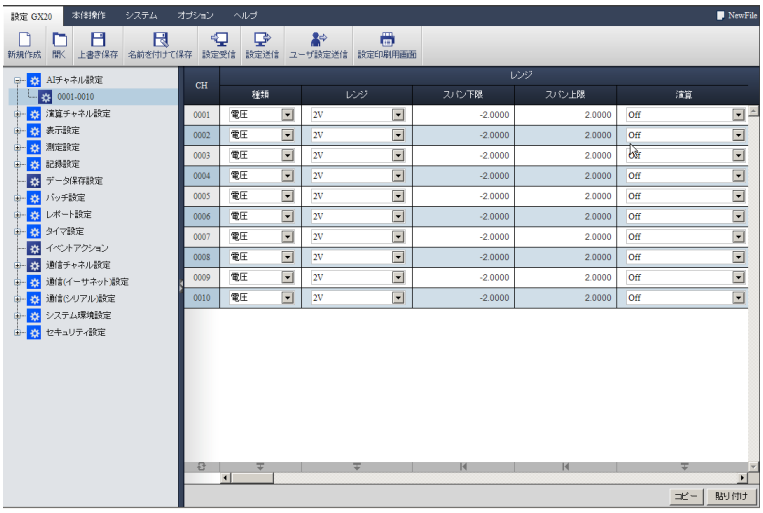
2.2 設定データを表示する

2.2.1 ファイルを開く

PC に保存された既存の設定データファイルを読み込んで表示させます。

操　作

1 ハードウェア設定を起動します。
設定画面が表示されます。



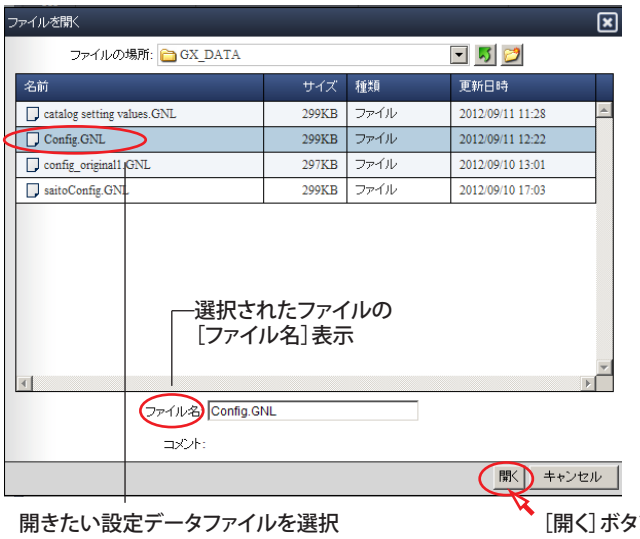
2 メインメニュー［設定］タブー［開く］をクリックします。

［ファイルを開く］ダイアログボックス * が表示されます。

*　フォルダにファイル数が多い場合、リストの表示に時間がかかることがあります。

設定データファイルが格納されているフォルダを開きます。

3 表示させたい設定データファイル (拡張子 .GNL) を選択 * し、［開く］ボタンをクリックします。



データが読み込まれます。

Note

ファイルを指定するとき、格納場所へのパスには文字数の制限（ファイル名を含め 256 文字）があります。制限を超えるとエラーになりますので、階層の深さ、および、ファイル名の長さにはあらかじめご注意ください。

2.3 設定データを編集する

2.3.1 設定を編集する

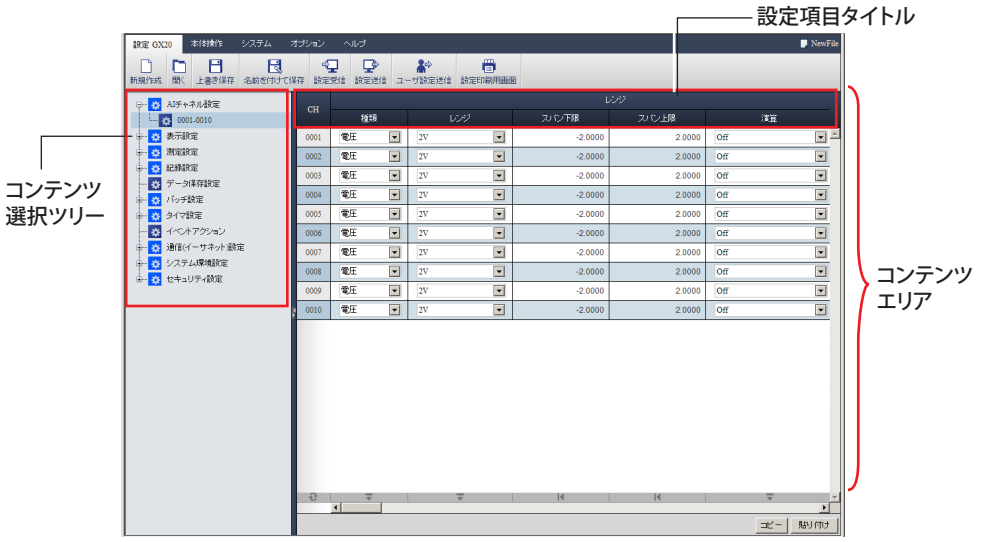
本ソフトウェア上で GX/GP の設定データ（*.gnl）を編集する場合の操作方法を説明します。設定データの編集機能や表示画面は、GX/GP 本体の「Web アプリケーション」の設定編集機能と同等です。

また、設定項目は本体の設定項目と同等であるため、ここでは代表的な操作方法と本ソフトの特徴についてのみ記載します。

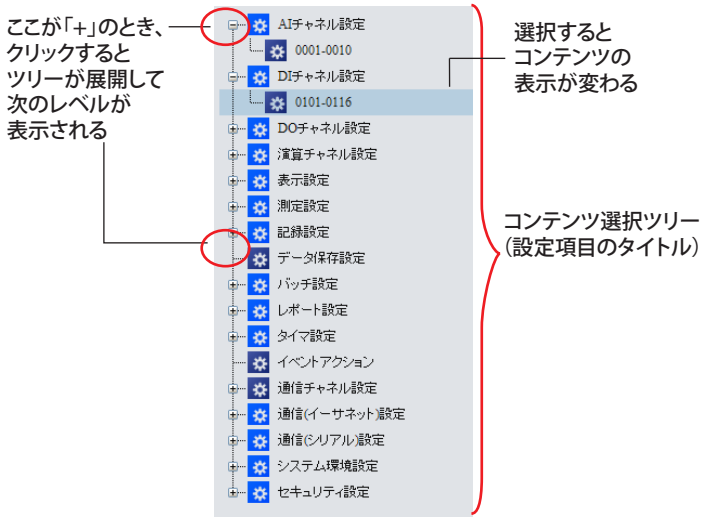
各設定項目の詳細について：▶ Models GX10/GX20/GP10/GP20　ペーパレスレコーダ　ユーザーズマニュアル（IM04L51B01-01JA）　第 1 章「GX/GP を設定する」

操　作

1　［設定］タブに、設定を編集するためのファイルを表示させます。



2　表示画面左側の［コンテンツ選択ツリー］より、設定したい項目のタイトルを選択します。（この例では DI チャネルの設定をするものとします。）



タイトルを選択すると、画面右側のコンテンツエリアに設定項目を読み込み、表示が変わります。

Note

読み込みには一定の時間を要するため、処理中のアイコンが表示されることがあります。処理中のアイコンが表示されている間は、操作を行うことができません。

3　チャネルの設定を編集します。
編集はコンテンツエリアの各設定項目に対して行います。

Note

- 設定コンテンツエリア内で行った変更は、設定ソフトウェアの内部に保持されます。
- 本ソフトウェアはオフラインで設定編集を行うアプリケーションのため、コンテンツエリアに表示される項目はすべて変更することができます。

2.3.2　設定値の編集と操作

入力用コントロールとダイアログボックス

本ソフトウェアで設定を編集するとき、設定値を選択、または入力するために、下表のような「入力用コントロール」と「ダイアログボックス」が表示されます。

コントロールの種類	表示例	設定方法
テキストボックス	-2.0000	テキストや数値を入力する
チェックボックス	☑	クリックしてチェックを入れると「On」、または「有」を意味する
リストボックス	電圧 ▼	▼をクリックして表示されるリストから選ぶ
オプションボタン	◉ ポイント ○ カンマ	クリックして選ぶ

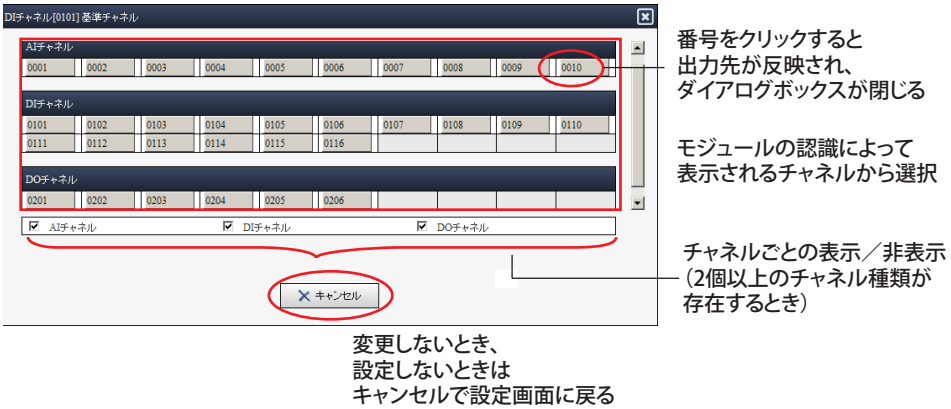
ダイアログボックスの種類	表示例	設定方法
チャネル選択ボタン	操作 1 手順 1	入出力チャネルなど特定のチャネルを設定する場合、チャネル番号ボタンをクリックすることでチャネルを指定する。
色選択	操作 1 手順 2	ダイアログボックス内の色選択パレットから、色をクリックする。また、RGB の数値入力により、自由に色を指定することもできる。
チャネル選択文字列	操作 2	表示グループ設定など複数のチャネルを指定する場合、チャネル番号ボタンをクリックすることで、ダイアログボックス内のチャネル構成に文字列としてチャネルを追加する。
データ文字列選択	操作 3	内部スイッチなどを指定する場合、表示されているスイッチ番号などの文字列をクリックする。（チャネル選択と同じ。）
特殊機能（入力値補正）	操作 4	入力値補正機能を使用する場合、入力補正値の編集を行うためのダイアログボックス。ここでは補正値を直接入力して設定する。

次ページに、上記のダイアログボックスが表示される代表的な編集操作例を挙げます。
［コンテンツ選択ツリー］より、設定したい項目のタイトルを選んだのち、表示された設定項目を編集していきます。編集操作はおもに、表示されたチャネルやデータの文字列をクリックすることで行うことができます。

操作 1

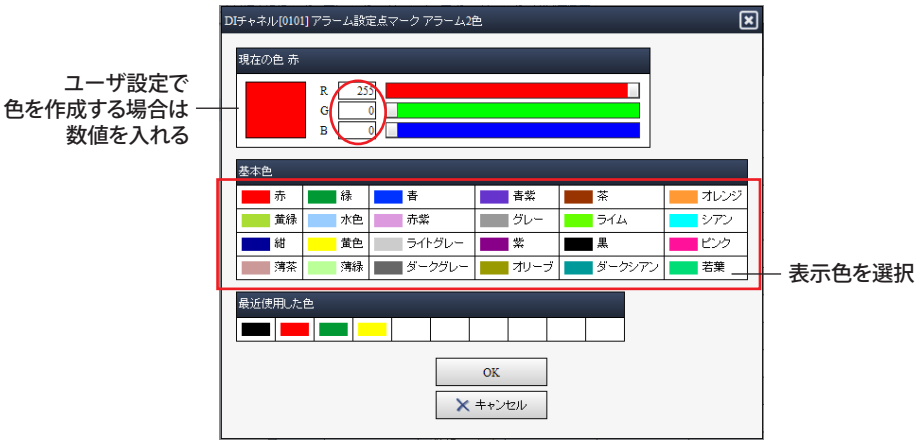
1　チャネルのレンジ設定をします。

差演算の基準チャネルを設定する例です。［基準チャネル］のチャネル番号をクリックします。
［チャネル選択ボタン］のダイアログボックスが表示されます。



2　画面を右へスクロールしていき、各項目を設定します。

3　アラームマークの色を変更したいときは、色をクリックします。
［色選択］のダイアログボックスが表示されます。

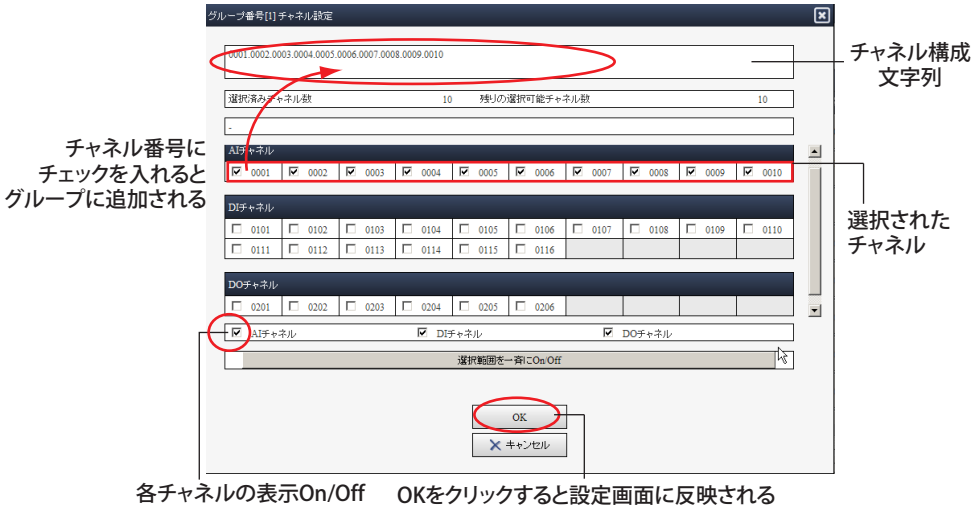


操作 2

［チャネル選択文字列］

メニューツリーで［表示設定］－［グループ設定］を選択、グループ 1 に含まれるチャネルを設定する例です。［チャネル設定］のチャネル番号をクリックします。

［チャネル選択文字列］のダイアログボックスが表示されます。

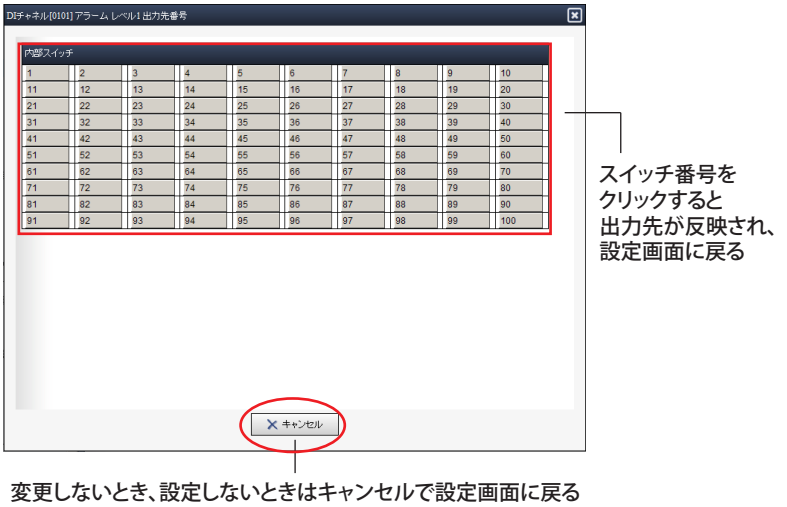


操作 3

［データ文字列選択］

アラーム出力先を設定する例です。［出力先番号］の番号をクリックします。

［データ文字列選択］ダイアログボックスが表示されます。



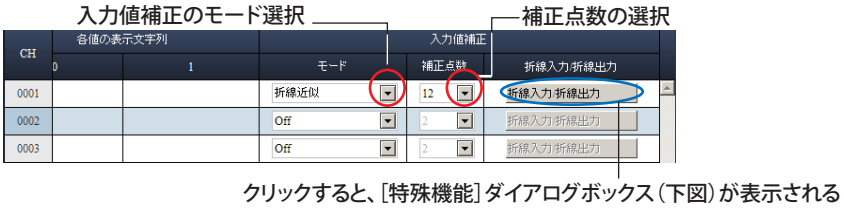
Note

- チャネル数が選択可能な最大数に達すると、それ以上のチャネルは選択できなくなります。
- チェックボックス、オプションボタンで選択できる編集画面は、範囲選択ができます。
  範囲選択の方法：▶ 2.3.3 範囲選択とコピー＆ペースト操作

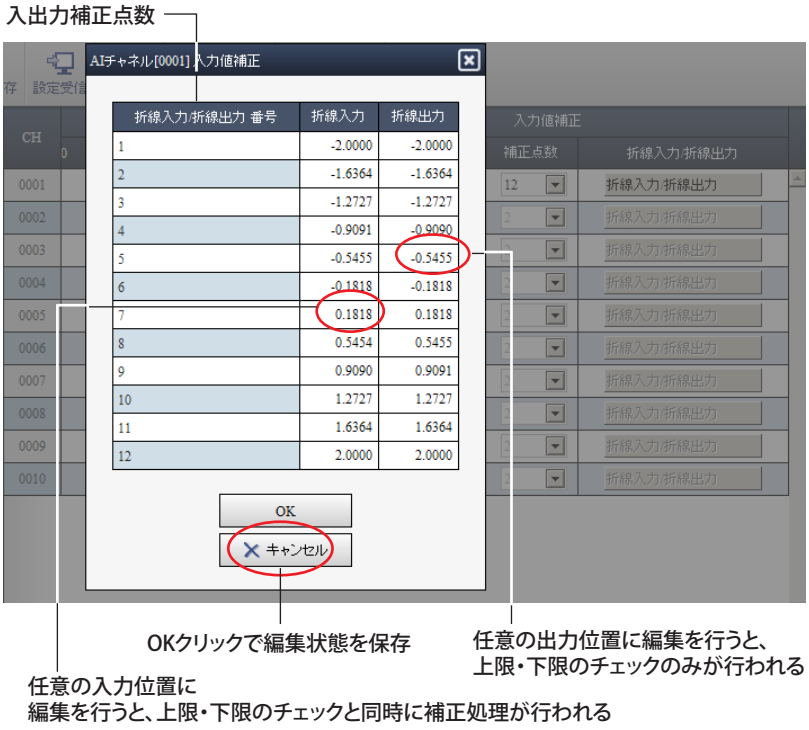
操作　4

［特殊機能］入力値補正ダイアログボックス

AIチャネル設定で入力補正値を編集する例です。［入力値補正］の［折線入力/折線出力］ボタンをクリックします。



［入力値補正］ダイアログボックスが表示されます。



Note

- ［入力値補正］ダイアログボックスでは、任意の入力位置に設定値を入力すると、上限・下限のチェックと同時に、他の入力位置の設定値とのチェックを行い、補正処理が行われます。
  また、任意の出力位置に設定値を入力すると、上限・下限のチェックのみが行われます。入力値補正の補正処理について詳しくは、Models GX10/GX20/GP10/GP20　ペーパレスレコーダ ユーザーズマニュアル（IM04L51B01-01JA）を参照ください。
- 設定画面に表示される項目や選択肢は、そのハードウェアのシステム構成に依存します。設定したい項目が表示されないときは、オプションやモジュール構成を確認してください。
  ［システム構成］の設定方法：▶ 2.1 設定データを新規作成する

2.3.3　範囲選択とコピー＆ペースト操作

本ソフトウェアでは、設定内容を範囲選択し、まとめて編集したり、コピー＆ペースト操作を行うことができます。
範囲選択方法と、［コピー］ボタン、［ペースト］ボタン、また［ツール］ボタンの使い方について下記します。

範囲を選択する

操　作

1　行を選択する場合は「行タイトル」をクリックします。
例は［表示設定］－［トレンド設定］の「リスト形式」の設定画面です。

1 行が選択されました。

2　複数行を選択したい場合は、そのままマウスを下へドラッグし、選択範囲を終了したいところでマウスを放します。

複数行が選択されました。

Note

範囲を選択するとき、複数行を個別に選択することはできません。また、単独で列を選択することもできません。

選択範囲をコピー＆ペーストする

操　作

1 選択範囲をコピーしたいときは、そのまま、画面右下の［コピー］ボタンをクリックします。キーボードの「Ctrl」+「C」でもコピーできます。

クリップボードにコピーされると、下図のように、選択範囲の色が変わります。

2 クリップボードにコピーされた内容を、Excel やテキストエディタに貼り付けることができます。下記は Excel の A1 セルに貼り付けた例です。

Excel に貼り付けるときは、貼り付け先のセルの書式*を確認してください。

	A	B	C
1	スタート時波形消去	Off	
2	波形線幅	標準	
3	グリッド	自動	
4	表示桁	標準	
5	現在値表示	マーク	
6	現在値マークチャネル番号	3桁	
7	On/Off	Off	
8			

3 貼り付けた内容は、Excel やテキストエディタ上で編集できます。

	A	B
1	表示方向	横
2	スタート時波形消去	Off
3	波形線幅	標準
4	グリッド	自動

→

	A	B
1	表示方向	縦
2	スタート時波形消去	On
3	波形線幅	細い
4	グリッド	5

B列の値をExcel上で編集

4 編集した内容は、再度、設定項目に貼り付けることができます。Excel 上の編集結果をコピーします。設定値だけではなく、項目のタイトルである A 列も同時に選択、コピーしてください。

	A	B
1	表示方向	縦
2	スタート時波形消去	On
3	波形線幅	細い
4	グリッド	5
5		

5 貼り付け先の設定画面の貼り付け範囲を選択します。貼り付けるデータと貼り付け先の範囲（行数）は同様にしてください。

6 データを貼り付けます。画面右下の［貼り付け］ボタンをクリックします。キーボードの「Ctrl」+「V」でもペーストできます。

Excel の編集結果が設定画面に貼り付けされました。

Note

- Excel に設定内容を貼り付けるとき、貼り付け先のセルの書式によって表示が変わることがあります。たとえば、書式が「数値」になっていると、「0001」は「1」になります。
  貼り付け先の Excel シートの「セルの書式設定」メニューで、「表示形式」を「文字列」に設定しておくと、貼り付けた値の自動補正を防ぐことができます。
- 上記の設定でも、Excel に設定値が表示どおりに貼り付かない場合は、テキストエディタでのコピー／貼り付けをお奨めします。
- Excel やテキストエディタで編集した内容が設定範囲を超えている場合、本ソフトウェアの設定画面に貼り付ける際には、直接入力したときと同様に設定値の補正が行われます。

形式が異なる設定画面での範囲選択とコピー＆ペースト

下記の例は［AI チャネル設定］の設定画面です。

操　作

1　範囲の選択は下記のように行います。

CH	レンジ				
	種類	レンジ	スパン下限	スパン上限	演算
0001	スキップ	2V	-2.0000	2.0000	Off
0002	電圧	200mV	-200.00	200.00	Off
0003	TC	S	0.0	1760.0	差演算
0004	RTD	Pt100	-200.0	850.0	Off
0005	電圧	2V	-2.0000	2.0000	Off

行のタイトルをクリックで、一行すべてを選択できる。
そのまま下方向へドラッグすることで、複数行を選択できる。

2　チャネルの設定内容（行）をコピーします。

CH	レンジ				
	種類	レンジ	スパン下限	スパン上限	演算
0001	スキップ	2V	-2.0000	2.0000	Off
0002	電圧	200mV	-200.00	200.00	Off
0003	TC	S	0.0	1760.0	差演算
0004	RTD	Pt100	-200.0	850.0	Off
0005	電圧	2V	-2.0000	2.0000	Off

「Ctrl」+「C」キー、または［コピー］ボタンをクリックで、セルをコピーできる。

3　貼り付け先のセルを選択、異なるチャネルに貼り付けます。

CH	レンジ				
	種類	レンジ	スパン下限	スパン上限	演算
0001	スキップ	2V	-2.0000	2.0000	Off
0002	電圧	200mV	-200.00	200.00	Off
0003	TC	S	0.0	1760.0	差演算
0004	RTD	Pt100	-200.0	850.0	Off
0005	スキップ	2V	-2.0000	2.0000	Off
0006	電圧	200mV	-200.00	200.00	Off
0007	TC	S	0.0	1760.0	差演算
0008	RTD	Pt100	-200.0	850.0	Off
0009	電圧	2V	-2.0000	2.0000	Off
0010	電圧	2V	-2.0000	2.0000	Off

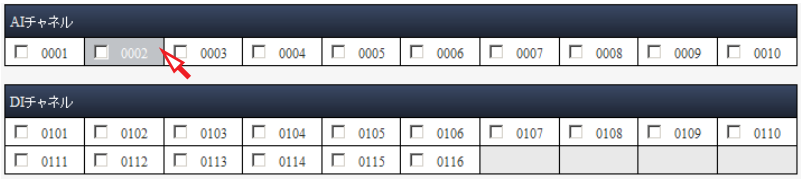
コピー　貼り付け

「Ctrl」+「V」キー、または［貼り付け］ボタンをクリックで、セルを貼り付けできる。

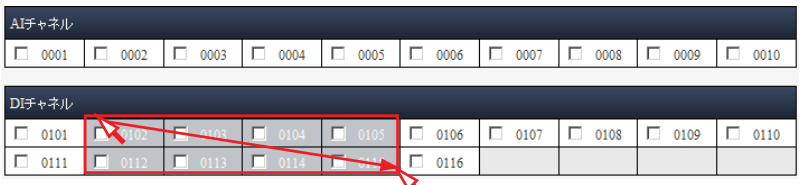
下記の例は［表示設定］－［グループ設定］の「チャネル設定」の設定画面です。

操　作

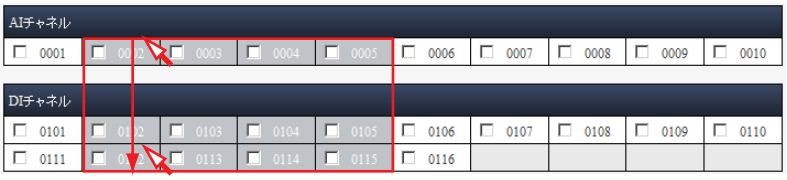
1　範囲の選択は下記のように行います。



セル内のラベルをクリックで、単独セルを選択できる

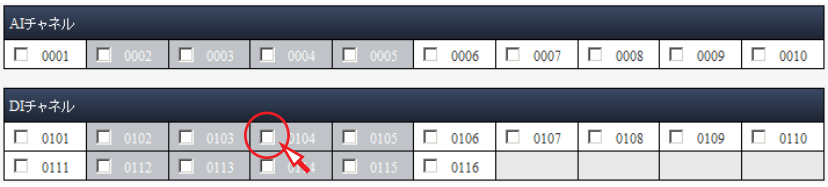


ドラッグすることで矩形のセル選択ができる



設定項目ブロックをまたいでの範囲選択もできる

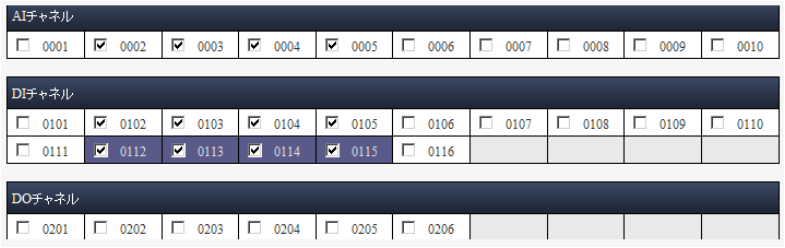
2　選択範囲のいずれかのチェックボックスを「Ctrl」＋「クリック」、または、［選択範囲を一斉に On/Off］ボタンをクリックすると、選択範囲のチェックボックスをすべて On にしたり、Off にしたりすることができます。



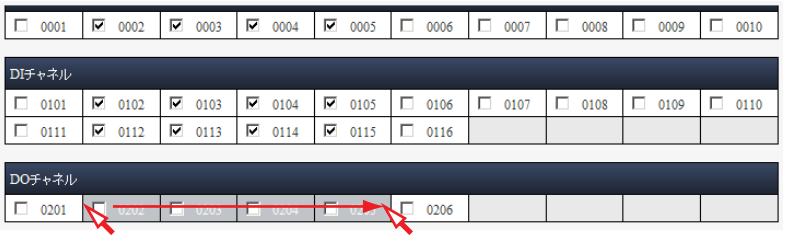
「Ctrl」+「クリック」、または、［一斉に選択範囲のチェックマークのOn/Off］ボタンで
選択範囲のチェックマークが一斉に切り替えできる

選択範囲すべてのチェックマークがOnになった。　再クリックで、すべてOffになる。

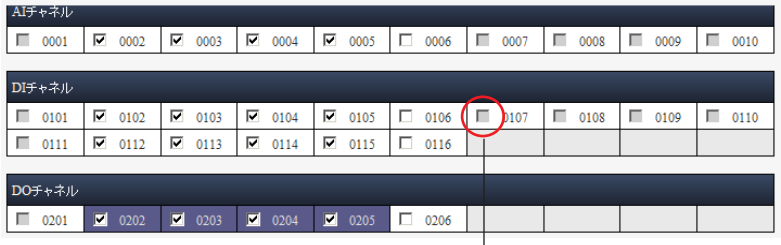
3 選択範囲の内容を、そのまま他のセルに貼り付けることができます。



コピー元のセルを選択し、「Ctrl」+「C」でコピーする



貼り付け先のセルを選択し、ドラッグして範囲を選択



「Ctrl」+「V」で貼り付け

チャネルの最大選択数に達すると、チェックが入れられない状態になる

Note

- コピー／貼り付けを行おうとした場合に、Internet Explorer から「この Web ページがクリップボードへアクセスするのを許可しますか？」というダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログで、「アクセスを許可する」を選択すると、本ソフトウェアのコピー / 貼り付け機能は有効になります。「許可しない」を選択すると、コピー / 貼り付け機能は使用できません。
- チェック（On）の個数が最大選択数に達すると、Off のチェックボックスは無効表示になり、貼り付けできません。また、もともとチェックボックスがないセルに対しては貼り付けることができません。
- 編集のできない文字列、パスワード（隠蔽文字列）は貼り付けができません。
- オプションボタンや、リストボックスなどの選択では、選択されている文字列のみがコピー、貼り付けできます。

解　説

本ソフトウェアの設定画面は、3 つの表示形式に分けることができます。
ひとつは、［トレンド設定］の表示画面のような選択式の「リスト形式」、2 つめは［AI チャネル設定］のような「表形式」、3 つめは［グループ設定］における［チャネル設定］のような「チェックボックスシート形式」のものです。画面の形式ごとの、編集方法の違いを表にすると次のようになります。

画面の種類	選択できる範囲	範囲選択方法	選択の解除方法	制限事項
リスト形式	• 行単位。 • 設定項目をまたいで複数行も選択可。	行のタイトルクリックで行すべてを選択できる。 行のタイトルをドラッグすることで複数行を選択できる。	設定項目編集エリア内、かつ行タイトル以外の部分をクリックする	複数行を個別に選択することはできない。 各列を単独で選択することはできない。
表形式	• 1 行～複数行の選択	行のタイトルクリックで行すべてを選択できる。 行のタイトルをドラッグすることで複数行を選択できる。	行タイトル以外の部分をクリックする	異なる行のセルを左クリックすると、前に選択していた行の選択状態は解除される。
チェックボックスシート形式	• 単独セルの選択 • 矩形の範囲選択	セル内のラベルをクリックすると単独セルを選択できる。 斜めにドラッグすることで長方形に範囲選択ができる。 設定項目ブロックをまたいでの範囲選択ができる。	「Ctrl」を押していない状態で、チェックシート内のいずれかをクリックする。	On の個数が最大選択数に達すると、Off のチェックボックスは無効表示になる。

ツールボタンを使った編集

表形式の設定画面では、表の下部に表示されるツールボタンを使って編集することができます。それぞれのツールボタンには、あらかじめ機能が割り当てられており、機能に応じた編集処理を一括で行いたいときに使用します。
ツールボタンには、「初期化」、「貼り付け」、「インクリメント」、「最小 / 最大」、「切り替え」の種類があります。

ツールボタンの種類と機能の一覧：▶次ページの表参照

下記の操作例は、［貼り付け］ツールボタンを使用して、チャネルの「 種類 」を同じに設定した例です。

操　作

1 表形式の設定画面（ここでは［AI チャネル設定］の設定画面）で、コピーしたいデータがある行を選択します。

CH0001 の行が選択されました。

2 同じ種類に設定したい行まで、ドラッグして選択します。

CH0004 の行までが選択されました。

同じデータを貼り付けしたい行までドラッグする

3 ツールボタンの［貼り付け］をクリックします。

CH0002 から CH0004 までの種類がすべて［電圧］に設定されました。

Note

- ツールボタンを使用して貼り付けを行った場合、直接入力したときと同様に、設定値の自動補正が行われます。
- ツールボタンは、いずれのセルも選択されていない場合には無効となります。（「切り替え」ボタンの全行選択／解除を除く。）

ツールボタンの種類と機能の一覧は下表のとおりです。

ボタン	アイコン	機能
貼り付け		選択開始行の値を、選択終了行までのすべての行に貼り付ける。
インクリメント		• 数値入力の場合 選択開始の先頭行の数値を元に、1digit ずつ加算した数値を選択終了行まで順次貼り付ける。 • 文字列入力の場合 選択開始行の文字列を元に、1 ずつ加算した通し番号を選択終了行まで順次貼り付ける。 • ただし、先頭行の文字列の最後が数値で終わっている場合はその数値を通し番号の先頭とし、最後が文字列で終わっている場合は、先頭行の文字列の最後に通し番号 1 を付ける。
初期化		選択された行の値を、その設定項目値の初期値にする。
最小値		選択された行の値を、その設定項目値の最小値にする。
最大値		選択された行の値を、その設定項目値の最大値にする。
切り替え		• チェックボックスの場合 選択された行のチェックボックスの値を一斉に切り替える。 選択された行すべてのチェックボックスが On になっている場合はすべて Off に、いずれかが Off になっている場合はすべて On にする。 •「行のタイトル」列の場合 表中の全行選択 / 全行選択解除を行う。

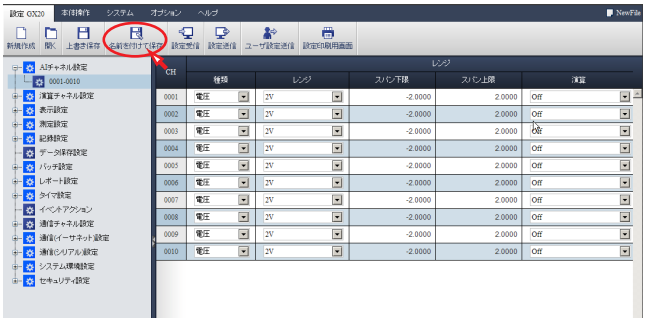
2.4 設定データを保存する

2.4.1 設定データファイルを保存する

作成した設定データファイルを PC に保存します。

操 作

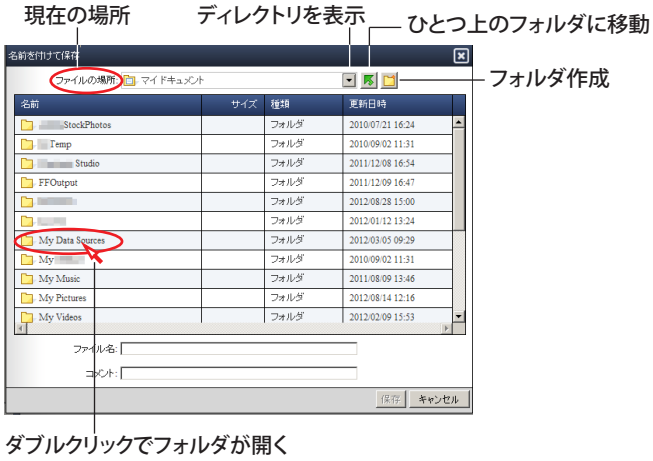
1 メインメニュー［設定］タブ－［名前を付けて保存］をクリックします。



［名前を付けて保存］ダイアログボックス * が表示されます。

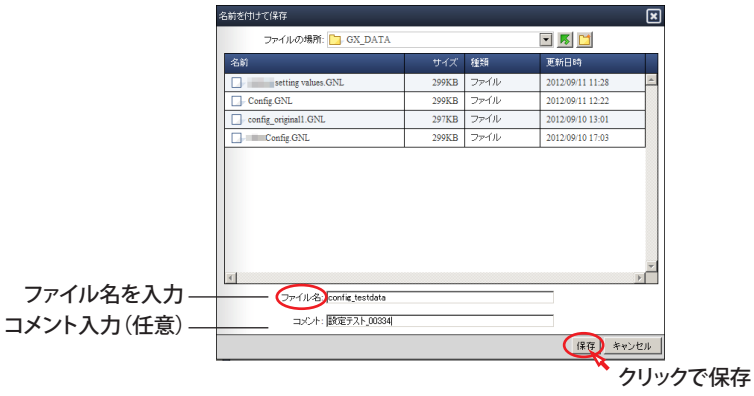
＊ フォルダにファイル数が多い場合、リストの表示に時間がかかることがあります。

最初に開いたとき、表示される「場所」は「マイドキュメント」です。起動 2 回目以降は、前回ファイルを開いたり、保存した場所が表示されるようになります。



2 保存場所を指定したら、ファイル名を入力し、［保存］ボタンをクリックします。

保存場所に同名ファイルがあるときは「上書き」の確認が表示されます。上書きしてもよい場合は［OK］ボタン、上書きしたくない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。



指定した場所に、設定データファイル（拡張子：*.gnl）が保存されます。

Note

- ファイル格納場所へのパスには文字数の制限（ファイル名を含め 256 文字）があります。制限を超えるとエラーになりますので、階層の深さ、および、ファイル名の長さにはあらかじめご注意ください。
- 次の文字は、ファイル名、またはフォルダ名に使用することができません。

禁止文字	名称
「/」	スラッシュ
「>」「<」	不等号
「:」	コロン
「?」	疑問符
「"」	ダブル クォーテーション
「'」	シングル クォーテーション
「\」	円記号（バック スラッシュ）
「*」	アスタリスク
「|」	縦棒（パイプ）
「;」	セミコロン

- コメントは半角 50 文字まで入力することができます。

上書き保存

メインメニュー［設定］タブー［上書き保存］をクリックすると、その時点で編集内容を、編集中のファイルに上書きします。
そのファイルがまだ一度も保存されていない場合は、［上書き保存］をクリックしても、新規保存と同様の手順になります。

［設定］タブ ー［上書き保存］をクリック

2.5 設定データを受信する、送信する

GX/GP 本体から設定データを受信したり、また、GX/GP 本体へ設定データを送信したりすることができます。本体が記録中、演算中の場合は設定データの送信はできません。（ユーザ設定の送信を除く）

Note

- 本体と設定データの送受信を行う場合は、システム構成を確認してください。接続された本体と構成が異なる場合、正しく設定が行われない可能性があります。
- 本体設定の［セキュリティ設定］－［基本設定］－［通信］が「ログイン」になっている場合は、ユーザレベル「Admin」のユーザ名で送信を行ってください。「Admin」以外のユーザレベルで送信を行うと、セキュリティ設定など一部の設定データは本体へ設定することができません。

2.5.1 設定データを受信する

操　作

1 メインメニュー［設定］タブー［設定受信］をクリックします。

通信情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

2 通信情報を入力し終えたら、［OK］ボタンをクリックします。
受信開始の確認メッセージが表示されます。

3 受信を開始するときは［OK］ボタンをクリックします。
本体から設定値を受信して表示します。ファイル名表示が「NewFile」になります。

解　説

ユーザ名、パスワード

通信経由で本体にログインするためのユーザ情報を入力します。2 回目の起動からは、前回入力した［ユーザ名］が表示されますので、パスワードのみの入力が必要になります。

- 入力可能な文字数：半角 20 文字まで。半角 20 文字を超えるとカットされます。
- 入力範囲文字：英字（A ～ Z、a ～ z）、数字（0 ～ 9）

Ethernet 通信パラメータ

IP アドレス／ホスト名は、2 回目の起動からは、前回起動時に入力された文字列が保持されます。

- 入力可能な文字数：半角 128 文字まで。半角 128 文字を超えるとカットされます。
- 入力範囲文字：英字（A ～ Z、a ～ z）、数字（0 ～ 9）、ハイフン（-）、ドット（.）

ポート番号は、接続する本体のポート番号です。本体のポート番号に変更があれば、変更したポート番号を入力します。

- デフォルト値：34434（設定範囲：1 ～ 65535）

シリアル通信パラメータ

RS-232、RS-422/485 の［通信ポート］、［ボーレート］、［パリティ］はそれぞれリストボックスから選択します。（RS-422/485 の［アドレス］は入力。）これらの設定値も、2 回目の起動からは前回起動時に設定した値を表示します。

通信	設定項目	初期値	選択範囲
RS-232 RS-422/485	ポート番号	COM1	COM1 ～ COM9
	ボーレート	9600	9600/19200/38400/57600/115200 bps
	パリティ	EVEN	ODD/EVEN/NONE
RS-422/485	アドレス	1	1 ～ 99

Note

- シリアル通信の COM ポート番号を Windows のデバイスマネージャから変更した場合は、PC を再起動してください。再起動しないと、設定が有効にならないことがあります。
- 本設定ソフトでは、シリアル通信パラメータの「データ長」は 8 ビット、「ストップビット」は 1 ビット固定です。

2.5.2　設定データを送信する

表示中の設定データを GX/GP 本体に送信することができます。ただし、本体が記録中の場合は設定データを送信することができません。

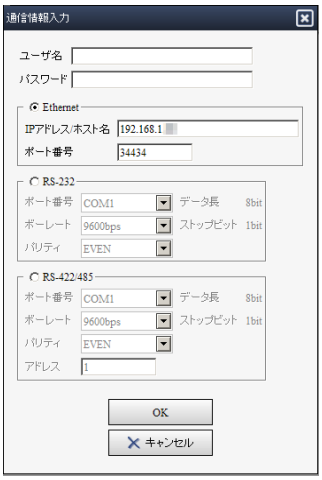
［セキュリティ設定］を変更してデータを送信する：▶ 2.5.4 本体のセキュリティ設定を変更する

操　作

1　メインメニュー［設定］タブ－［設定送信］をクリックします。

通信情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

2　通信情報を入力し終えたら、［OK］ボタンをクリックします。



送信開始の確認メッセージが表示されます。

3　送信を開始するときは［OK］ボタンをクリックします。
設定データの送信が行われます。

Note

本体設定の［セキュリティ設定］－［基本設定］－［通信］を［Off］から［ログイン］に変更して、設定データを送信するときは、2.5.4「**通信ログイン機能を［Off］から［ログイン］に変更するには**」の手順で送信を行ってください。

2.5.3　ユーザ設定を送信する

［ユーザ設定］のみを、GX/GP 本体に通信経由で送信することができます。この操作は、本体が記録中、または演算中の場合でも行うことができます。

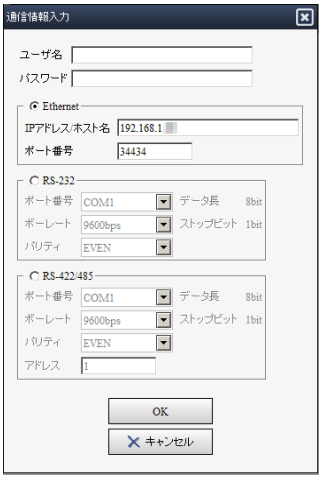
ユーザ設定の詳細：▶ Models GX10/GX20/GP10/GP20　ペーパレスレコーダ　ユーザーズマニュアル（IM 04L51B01-01JA）　1.19「セキュリティ機能を設定する」

操　作

1　メインメニュー［設定］タブー［ユーザ設定送信］をクリックします。

通信情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

2　通信情報を入力し終えたら、［OK］ボタンをクリックします。



送信開始の確認メッセージが表示されます。

3　送信を開始するときは［OK］ボタンをクリックします。
設定データの送信が行われます。

Note

ログイン中のユーザが自分の［ユーザ情報］を変更して本体へ送信すると、それ以降、設定コマンドを送信した際にエラーが発生します。本体に登録されている自分のユーザ情報を、ソフトウェアから通信で変更する場合は、2.5.4「登録された［ユーザ情報］を通信で変更するには」の手順で行ってください。

2.5.4　本体のセキュリティ設定を変更する

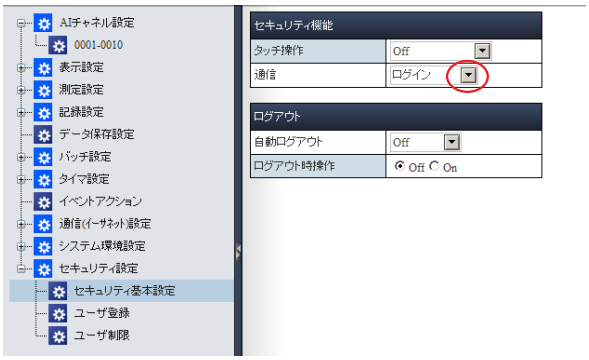
通信ログイン機能を［Off］から［ログイン］に変更するには

設定ソフトより、GX/GP 本体の通信ログイン機能を有効に設定する場合の手順です。
本体の［セキュリティ設定］－［基本設定］－［通信］が［Off］の状態のとき、ソフトウェアから通信で［ログイン］状態に変更します。

通信ログイン機能を「ログイン」から「Off」に変更する：▶ 2.5.2 設定データを送信する

操　作

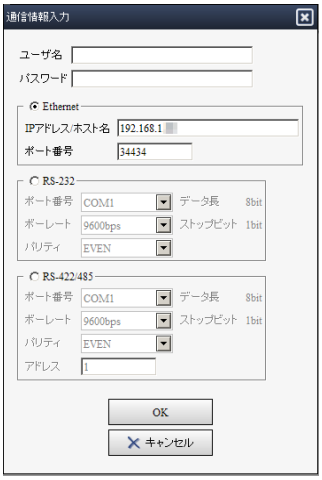
1 コンテンツ選択ツリーより、[セキュリティ設定]－[セキュリティ基本設定]を選択し、[セキュリティ機能]の［通信］を［ログイン］に設定します。



2 コンテンツ選択ツリーより、［セキュリティ設定］－［ユーザ登録］を選択し、ユーザを登録します。

3 サブメニューの[ユーザ設定送信]をクリックし、手順２のユーザ情報を本体に送信します。

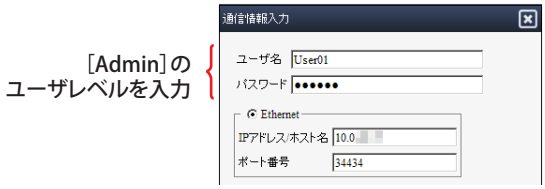
通信情報を入力するダイアログボックスが表示されます。



内容を確認して、**OK** をクリックすると設定データの送信が行われます。

4　ユーザ情報が送信できたら、サブメニューの「設定送信」をクリックします。

5　通信情報を入力するダイアログボックスが表示されます。手順３で送信した［ユーザ設定］の中から、［Admin］のユーザレベルの［ユーザ名］と［パスワード］を入力してください。



6　「OK」をクリックして、設定を送信します。
設定データの送信が行われます。

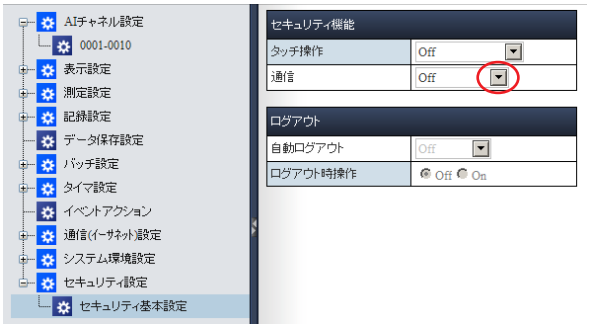
登録された［ユーザ情報］を通信で変更するには

ログイン中のユーザが自分のユーザ情報を、本ソフトウェアから通信で変更する手順です。

自分の［ユーザ情報］を変更せず、他のユーザのみ変更する：▶ 2.5.2 設定データを送信する
または、2.5.3 ユーザ設定を送信する

1　コンテンツ選択ツリーより、［セキュリティ設定］－［ユーザ登録］を選択し、ユーザ名やパスワードなどのユーザ登録情報を変更します。

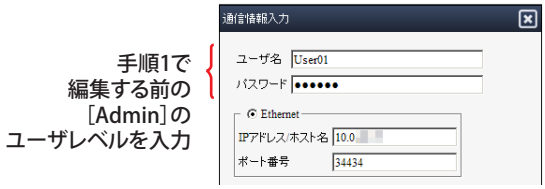
2　設定ソフトのコンテンツ選択ツリーより、［セキュリティ設定］－［セキュリティ基本設定］を選択し、［セキュリティ機能］の通信」を［Off］に設定します。



3 手順 1 で編集する前の［Admin］ユーザレベルの［ユーザ名］［パスワード］で、サブメニューの［設定送信］操作を行います。

［設定送信］をクリックします。

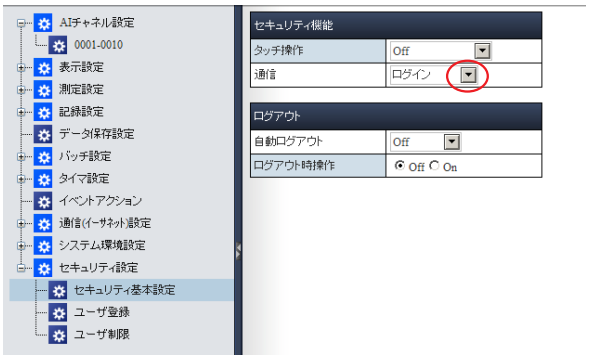
編集前の［Admin］のユーザレベルを入力します。



本体の［セキュリティ設定］－［基本設定］－［通信］が［Off］になります。

同時に、手順 1 で編集した［ユーザ情報］が本体へ設定されます。

4 設定ソフトのコンテンツ選択ツリーより、［セキュリティ設定］－［セキュリティ基本設定］を選択し、［セキュリティ機能］の［通信］を［ログイン］に戻します。



5 手順 1 で編集した［Admin］のユーザレベルの［ユーザ名］と［パスワード］を入力し、サブメニューの［設定送信］操作を再度行います。

本体の［セキュリティ設定］－［基本設定］－［通信］が［ログイン］に戻ります。

以上で［ユーザ情報］が更新されました。

2.6 本体を操作する

本ソフトウェアから GX/GP 本体の記録、または演算 * をスタート・ストップさせたり、本体のハードウェア情報を表示させることができます。

* 演算は付加仕様です。

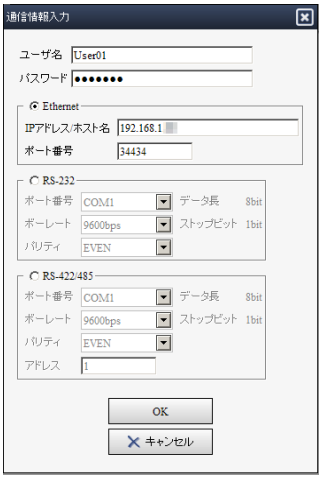
2.6.1 記録、演算を開始する／停止する

操 作

1 メインメニュー［本体操作］タブの、サブメニュー［記録開始］、［記録停止］、［演算開始］、［演算停止］のうち、実行したい操作のボタンをクリックします。

通信情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

メインメニュー［本体操作］タブの機能を選択すると、最初に通信設定のためのダイアログボックスが表示されます。［通信情報入力］ダイアログボックスの設定については、2.5.1「設定データを受信する」の操作手順をご覧ください。



2 通信情報を入力し終えたら、［OK］ボタンをクリックします。
開始、または停止の確認メッセージが表示されます。

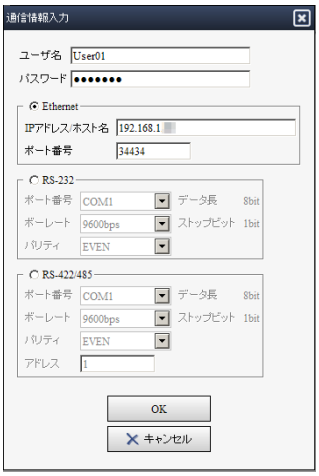
3 開始、停止を実行するときは［OK］をクリックします。
本体の記録、演算がスタート、またはストップします。

2.6.2　本体のハードウェア情報を確認する

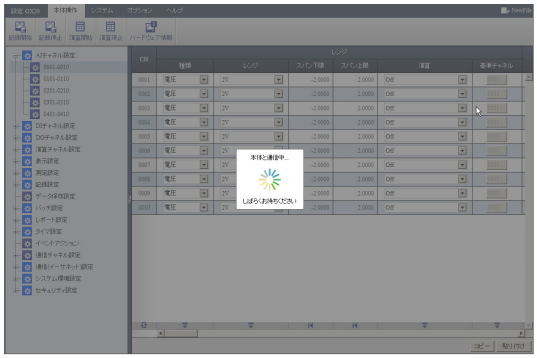
操　作

1　メインメニュー［本体操作］タブー［ハードウェア情報］を選択します。

通信情報を入入力するダイアログボックスが表示されます。



2　通信情報を入力し終えたら、［OK］ボタンをクリックします。
本体と通信を開始します。



［ハードウェア情報］ダイアログボックスが表示されます。

解 説

［ハードウェア情報］ダイアログボックスには以下の情報が表示されます。

基本情報

- 製品名称：GX20/GP20、または、GX10/GP10
- シリアル番号
- MAC アドレス
- ファームウェアバージョン
- 機器タイプ：GX10、GX20、GP10、GP20
- オプション：本体が認識可能なすべてのオプションを順番に表示します。

オプション		表示文字列
シリアル通信	/C2	RS-232
	/C3	RS-422/485
VGA 出力	/D5	VGA 出力
FAIL ／ステータス出力リレー	/FL	Fail 出力、 1 点
演算機能（レポート機能含む）	/MT	演算 (ﾚﾎﾟｰﾄ機能含む)
通信チャネル機能	/MC	通信チャネル機能
24V DC/AC 電源駆動	/P1	24V DC/AC 電源駆動
USB インタフェース（ホスト 2 ポート）	/UH	USB インタフェース (ﾎｽﾄ 2 ﾎﾟｰﾄ)
プレインストールモジュール	/U □□ 0	ｱﾅﾛｸﾞ (ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ) 入力ﾓｼﾞｭｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｽﾄｰﾙ
	/CR □□	ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ出力ﾓｼﾞｭｰﾙ、ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ入力ﾓｼﾞｭｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｽﾄｰﾙ

- チャネル情報：AI/DI/DO/ 演算 / 通信チャネル数を表示します。

モジュール構成

- ID
  GX20、GP20：0 ～ 9
  GX10、GP10：0 ～ 2
- 型名：モジュールの型名
- シリアル番号
- バージョン：モジュールのファームウェアバージョン
- オプション
- 特注：特注情報を表示。標準の場合は“標準”
- 入力チャネル数：モジュールの入力チャネル数
- 出力チャネル数：モジュールの出力チャネル数
- 状態：本体が出力する状態

状態

- 記録中：本体で記録している状態
- 演算中：本体で演算している状態
- メディアアクセス中：本体でメディアをアクセスしている状態

2.7 設定データを初期化する

本ソフトウェアでは、設定データを変更すると変更は内部に保存され、次回起動時にはそのまま表示されます。
現在のシステム構成を表示、あるいは変更したい場合、2.7.1 の操作を行います。
システム構成を変更すると、表示中の設定データも初期化されます。
現在のシステム構成を変更せず、設定値のみを初期化する場合、2.7.2 の操作を行います。

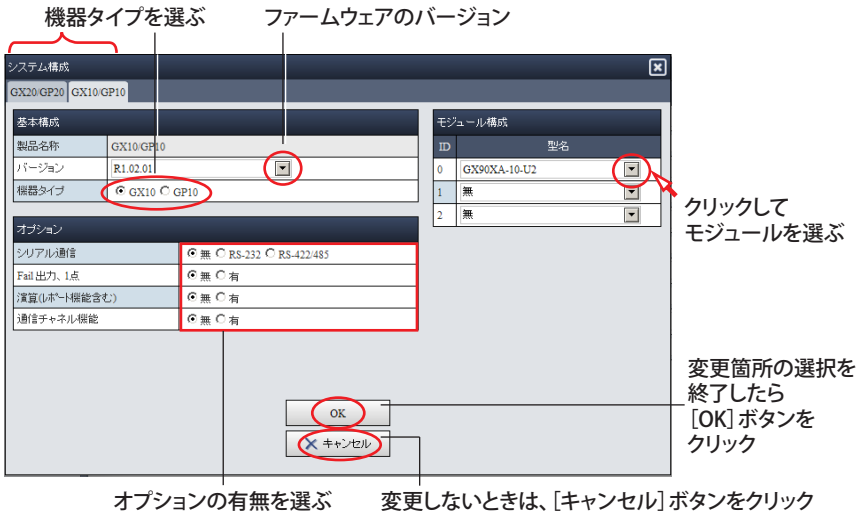
2.7.1 システム構成を表示する、変更する

操 作

1 メインメニュー［システム］タブー［システム構成］を選択します。

［システム構成］ダイアログボックスに、現在のシステム構成が表示されます。

2 システム構成を確認後、変更しない場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。
変更したい場合は、変更するオプションやモジュールを選択してください。



3 各項目を設定したあと、［OK］ボタンをクリックします。
システム構成が再構築され、それに基づく設定項目が表示されます。

2.7.2 設定データを初期化する

操 作

1 メインメニュー［システム］タブー［設定値の初期化］を選択します。

初期化の確認が表示されます。

2 ［OK］ボタンをクリックすると、初期化が実行されます
変更した設定内容は、設定データを新規に作成するときの状態に戻ります。

2.8 設定データを印刷する

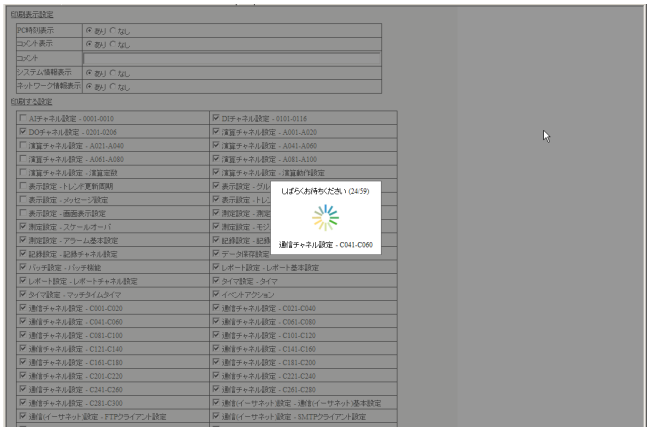
現在のシステム構成データ、および、設定データを別ウィンドウに表示し、印刷することができます。印刷する内容は選択することができます。

2.8.1 印刷の設定

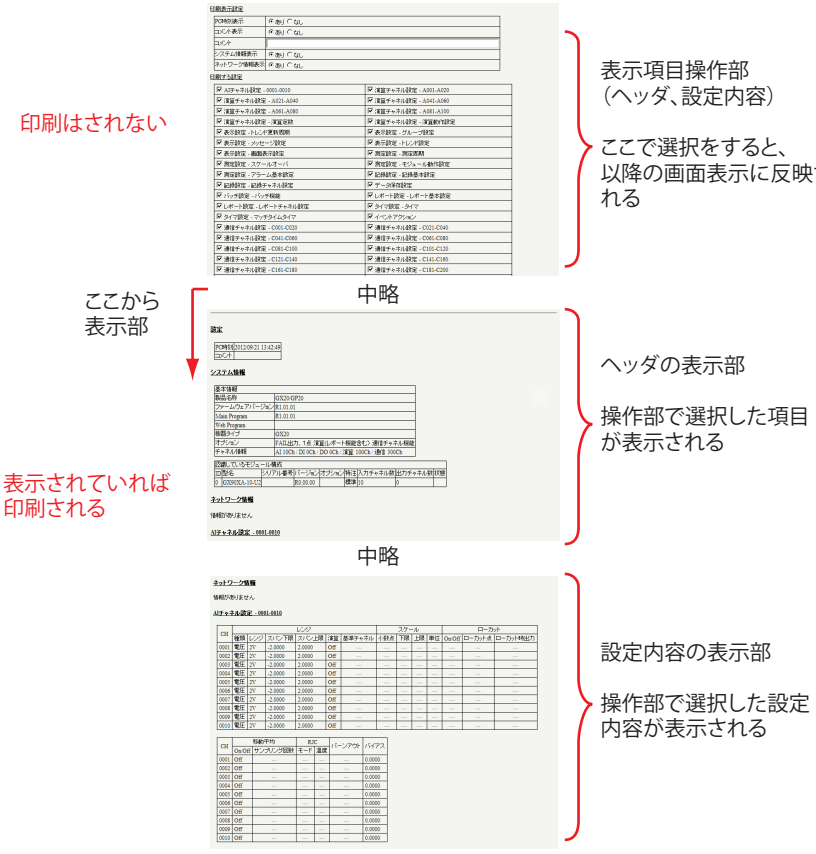
操　作

1 メインメニュー［設定］タブー［設定印刷用画面］を選択します。

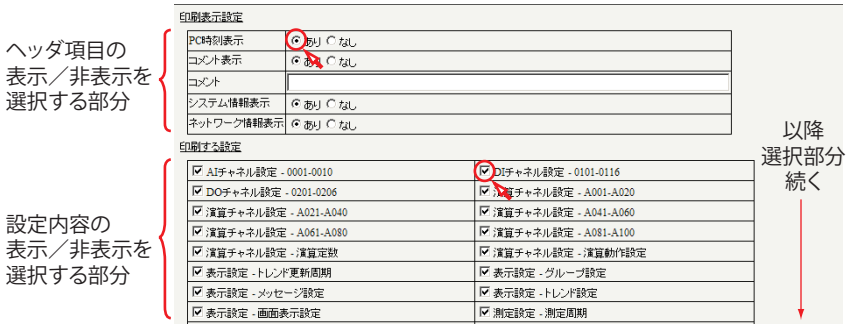
別ウィンドウが開き、データの読み込みが開始されます。



印刷用の画面が表示されます。画面は印刷内容の設定部（上部）と表示部（下部）に分かれています。



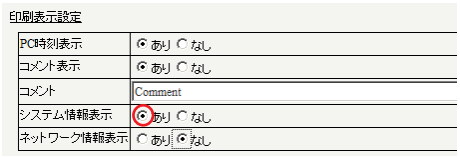
2 印刷内容の設定部（画面上部：オプションボタンとチェックボックスで選択可能な部分）で、印刷する内容を選びます。印刷したい内容は「あり」を選ぶか、または、チェックを入れます。印刷したくない内容は「なし」を選ぶか、または、チェックをはずします。



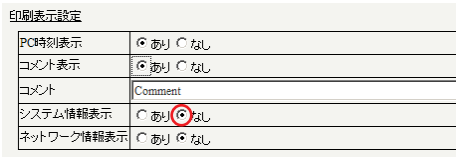
選択した内容（または、選択をはずした内容）が即時に画面に反映されます。

下図はヘッダ項目を変更した例です。

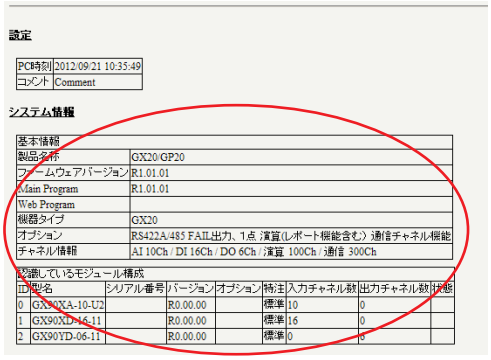
設定部変更前　システム情報表示「あり」の状態



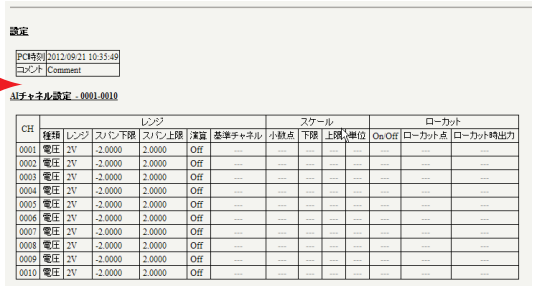
設定部変更後　システム情報表示「なし」の状態



表示部変更前



表示部変更後



[システム情報]の表示がなくなり、[AIチャネル設定]の表示が上にあがった状態

3 印刷する内容がすべて選択できたら、Web ブラウザのメニュー［ファイル］－［印刷］を選択します。

Web ブラウザの［印刷］ダイアログボックスが表示されます。

4 ［OK］ボタンをクリックします。

設定データが印刷されます。

Note

- ［ファイル］－［印刷プレビュー］を選択すると、印刷する前にレイアウトを見ることができます。
- プリンタの設定はご使用のシステム環境に従って設定してください。

Blank

3.1　エラーとメッセージ一覧

メッセージ

コード	メッセージ	説明／対処方法
M001	xxx ファイルへ変更を保存しますか？	ファイル名の確認。
M002	受信が完了しました。	受信は正常に完了。
M003	送信が完了しました。	送信が正常に完了。
M004	記録を開始しました。	本体で記録開始。
M005	記録を停止しました。	本体で記録終了。
M006	演算を開始しました。	本体で演算開始。
M007	演算を停止しました。	本体で演算停止。

警告メッセージ

コード	メッセージ	説明／対処方法
コードなし	不適切な値が入力されました。前回値に戻します。	設定項目に不適切な入力が行われた可能性があります。 下記の設定内容を確認してください。 • 演算式 • IP アドレス • FTP 接続先 • SMTP サーバ、または、POP3 サーバのパスワード • セキュリティ設定の操作ロック、またはユーザ登録のパスワード
W001	本体から設定値を受信します。	受信の確認。 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W002	設定値を送信します。ユーザレベルが「Admin」ではない場合、一部の設定データは機器に設定することができません。	送信の確認。 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W003	接続された本体と構成が異なるため正しく設定が行われない可能性があります。送信を続けますか？	送信の確認。 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W004	システム構成が変更されます。入力構成及び、データが初期化されますがよろしいですか？	システム構成を変更すると、表示中の設定データが初期化されます。変更を続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W005	上書きしますか？	同名ファイルが存在時の上書きの確認。 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W006	記録を開始します。	記録開始操作の確認 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W007	記録を停止します。	記録停止操作の確認 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W008	演算を開始します。	演算開始操作の確認 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W009	演算を停止します。	演算停止操作の確認 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W010	現在の設定を初期化します。	初期化操作の確認 続ける場合は［OK］ボタンをクリック、［キャンセル］で取り消し。
W011	一部送信できませんでした。	システム構成の違いによって本体に設定できていない設定データがあります。システム設定を確認してください。
W012	チャネル数が最大値を超えています。	モジュール構成の設定が最大チャネル数を超えています。 モジュールと最大チャネル数を確認し、設定しなおしてください。
W013	一部設定できませんでした。	ソフトに設定できない設定データがあります。システム構成を確認してください。

エラーメッセージ

E004 は英語で表示されます。

コード	メッセージ	説明／対処方法
E001	通信エラーです。	本体との通信でエラーが発生しました。通信パラメータ、ネットワークケーブル、本体の設定などを確認してください。
E002	ファイルの作成に失敗しました。	書き込みに失敗しました。フォルダ、ファイルの属性を確認してください。
E003	ファイルの読み込みに失敗しました	ファイルが開けません。ファイル名を確認してください。
E004	Internet Explorer is not installed.	Internet Explorer がインストールされていません。 Internet Explorer をインストールしてください。
E005	本体は記録中です。設定できません。	記録中は設定を送信できません。停止してから再送信してください。
E006	本体は演算中です。設定できません。	演算中は設定を送信できません。停止してから再送信してください。
E007	読み取り専用ファイルです。	読み取り専用ファイルに書き込もうとしています。対象ファイルを書き込み可能にするか、別ファイルに変更してください。
E008	ファイルアクセス権がありません。	対象ファイルのアクセス権を確認してください。あるいは、ファイルを書き込みするファイルシステムのエントリ制限を超えていないか確認してください。
E009	ディスクがフルです。	書き込み先の容量を確認してください。
E010	ディレクトリがフルです。	書き込み先のファイル数を確認してください。
E011	ファイルが異常です。	ファイルフォーマットが異常な場合のエラーです。
E012	ファイルの共有違反です。	他のアプリケーションで、既に同じファイルを開いています。ファイルを閉じてください。
E013	エラーです。	上記 001 ～ 012 以外のエラーが発生しました。
E014	ディレクトリが存在しません。	ディレクトリが削除されている可能性があります。
E015	PDF ファイルリーダーがインストールされていません。	Adobe Reader をインストールしてください。
E016	ディレクトリは既に存在します。	パス、フォルダ名が正しく指定されているか確認してください。
E017	ファイルパスが不正です。	ファイルパスの文字列が文字制限（256 文字）を超えているか、または入力できない文字を使用しています。ファイルパスを短縮するか、ファイル名を修正してください。
E018	プログラムのオープンに失敗しました。	本ソフトで起動した Internet Explorer 以外のブラウザからアクセスしたか、Internet Explorer の更新を連続で行った場合に発生します。ブラウザをすべて終了し、設定ソフトを再起動してください。
E019	インターネット一時ファイルを削除し、ブラウザを閉じてから設定ソフトを再起動してください。	インターネット一時ファイルが、ソフトウェアの動作に影響する場合に表示されます。インターネット一時ファイルを削除してください。また、IE を閉じて、ハードウェア設定ソフトを再起動してください。
E020	ユーザ名かパスワードが間違っています。	通信条件ダイアログで有効なユーザ名とパスワードを入力してください。たとえば、ログイン中のユーザが自分のユーザ情報を変更して送信した場合、あるいは、本体の「セキュリティ設定―基本設定―通信」を「Off」から「ログイン」に変更する設定データを送信した場合などに表示されます。 この場合は、変更した有効なユーザ名とパスワードで再送信すれば、正常に送信されます。
E021	現在実行できる状態ではありません。	メニューから実行できない操作を行おうとしている場合に表示されます。